

No. 43 >>> Contents

●提携トピックス

北日本の呉服問屋が純国産絹胴裏地を生産するにあたり
～より良い“きもの”への思い～

・・・・・・・・・・・・・・・・株式会社④岩崎 次長 岩崎 慶介 ――― ①

●蚕糸絹トピックス

第3回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール
農林水産大臣賞受賞者は、“絹を未来に”プラチナボーイ研究会に決定

・・・・・・・・・・・・・・・・一般財団法人大日本蚕糸会 ――― ⑦

●国内情報

シルク遺産を訪ねて②②
絹糸紡績資料館 ―シナノケンシ株式会社企業博物館―

・・・・・・・・・・・・・・・・東京産業考古学会 副会長 平井 東幸 ――― ⑪

●国際情報

生糸電子検査国際標準の紹介

中国丝绸協会秘書処 主任 劉 文全

中国丝绸標準化技術委員会 秘書長 周 穎

・・・・・・・・・・・・・・・・中国蘇州大学紡織と服装工程学院 教授 費 万春 ――― ⑮

●シルク豆辞典

蚕の季節感・・・・・・・・東京農工大学農学部蚕学研究室 准教授 横山 岳 ――― ⑳

●研究・技術情報

雌のみが孵化する新しい蚕品種の開発

一般財団法人大日本蚕糸会蚕業技術研究所 研究アドバイザー 大沼 昭夫 ――― ㉔

●イベント情報

●提携支援センターから

提携支援センター活動日誌 ――― ㉓

平成 27 年度第 1 次分の純国産絹マーク使用許諾状況 ――― ㉔

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧 ――― ㉔

●蚕糸絹関係博物館一覧

●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）

北日本の呉服問屋が純国産絹胴裏地を生産するにあたり ～より良い“きもの”への思い～

株式会社[Ⓢ]岩崎

次長 岩崎 慶介

はじめに ～弊社のあゆみ～

函館市の地勢は、南を津軽海峡、東と北を太平洋、市域の三方を海に囲まれた街です。北海道内では比較的温暖な気候で、かつ地理的に本州に最も近いことから、幕末の開港以来本州との物流拠点として海運や漁業、造船などが発達し、港の発展とともに歴史を歩んできた街です。函館の街が、第一次世界大戦の影響による大戦景気により、大いに賑わい活気に溢れていた大正8年に、近江商人であった弊社初代社長・岩崎義造が近江長浜よりこの地に渡り、呉服問屋の暖簾（のれん）を上げました。

その後、第二次世界大戦のさなか発令さ

れた奢侈（しゃし）品等製造販売制限規則（七・七ぜいたく禁止令）により、多くの呉服同業の方々と同じく一時休店の憂き目に遭いました。戦後、ソビエト連邦の捕虜となっていた弊社二代目社長・岩崎慶造がシベリア抑留より帰国し、再び商いを開始しました。

昭和47年に青森市妙見に営業所、平成12年に札幌市中央区、平成19年に仙台市宮城野区にそれぞれ支店を開設しました。現四代目社長・岩崎義則にいたるまでのあいだ北海道・東北の地域に根差した商売を続けています。今年、平成27年で、創業96周年を数えます。



（株）丸本岩崎函館本店社屋



本店入口、岩崎慶介次長（左）、岩崎義則社長（右）

創業の精神

現在の弊社は、和装小物類から西陣織や加賀友禅、京友禅に代表される高級呉服までを幅広く扱う総合和装卸企業ですが、二代目社長・岩崎慶造の時代までは実用呉服専門の卸問屋でした。戦後の日本と言えば、まだまだ普段の生活の中に呉服（きもの）が存在していました。その時代の実用呉服の素材は、絹の代用品として登場し市民権を得た、ウールと化合繊維が主流で、機能性や着やすさ、安価であることが最も重視されていました。その後、高度経済成長期を迎え、暮らしが豊かになるにつれ、高級な正絹のきものが再び徐々に広がりを見せはじめました。

そんな中、弊社では初めての自社オリジナルブランドの胴裏を企画製作しました。その時製作されたのは、今ではほとんど目にするのがなくなった絹紡糸を製織した胴裏です。この胴裏は、絹の輝きと程よい滑りを持ち合わせ、大変着やすく、そして何より生糸使いの正絹胴裏と比べ非常に安価だったため、多くのきものファンに愛されました。オーダーきものを「より着やすく」「より安く」という、長らく実用呉服を専門に扱ってきた弊社の精神が色濃く投影された商品でした。しかし、絹紡糸は短い繊維をより合わせた糸であるため、毛羽立ちやすく、強度が弱かったという弱点がありました。その上、海外から、より安価な胴裏の流入増加により、次第にその役割を終えてゆきました。

北日本呉服市況①

～消えゆく“実用” 呉服～

戦後の高度経済成長期から時は流れ、和装業界を取り巻く環境は、周知のとおり徹底的に変わりました。

夢のような価格で作れば売れた時代に、“衣類”として「より着やすく」「より安く」という当然の考えは完全におざなりにされ、この業界に「消費者セール」という販売方法が浸透しました。この販売方法により、売上高と利益のみを追求した結果、きものは一般消費者にとって、あまりにも浮世離れした価格のものになってしまいました。

また、そのような超高級品にもかかわらず、安価で薄い輸入絹布を使用した胴裏や、ひどい場合にはポリエステル製の胴裏を使用し、お客様からは身長と体重しか聞かないような、適当なお仕立も多くみられ、“高いのに着づらいきもの”が多くつくられました。それに起因してか、販売を主たる目的とした“着付け教室”もこの時期に多く発生し、受講生を増やし販売による利益を上げるために、着付け方、道具、ルールなどを大いに複雑化しました。

そして、日本が不況を迎える頃には、きものは「高くて」「着心地が悪くて」「難しい」というイメージが完全に定着してしまいました。

北日本呉服市況②

～消えゆく“呉服店”～

「消費者セール」は大きな会場などで大々

的に行われることになり、その多くが割賦販売で販売されました。このことから、「囲み販売をしてローンを組ませる場」という悪評が次第に広がりました。その結果、地域に根差していたはずの「地元の呉服屋さん」の多くは、悪徳業者扱いをされ、特定商取引法の整備により訪問販売が規制された2000（平成12）年代初頭から中盤にかけ、その多くが姿を消しました。とりわけ、弊社が本拠地を置く函館では、歴史的に無店舗小売業の呉服販売（担（かつ）ぎ屋・担ぎ屋販売）が多かったため、その影響は顕著でした。

地域の呉服小売店に「消費者セール」を扇動した道南地域の呉服問屋が受けたダメージは計り知れず、ふと立ち止まりあたりを見渡すと、地域に残る呉服問屋は弊社一社となっていました。地域における業界の悪化と悪循環の責任の一端が自らにあることを、認めざるをえません。

北日本呉服市況③

～1都市に呉服店1軒の時代が来る～

現在、北海道地域に「呉服店」として登録をされている店舗・企業数は689店舗（2015（平成27）年現在 電話帳調べ）存在します。この店舗数は、大半が北海道の中心である札幌市周辺に集中しているとはいえ、全国の都道府県の中でも上から第5位に入る多さです（1位は東京都[975店舗]、次いで愛知県[951店舗]、兵庫県[758店舗]、大阪府[698店舗]、新潟県[694店舗]。いずれも2015年現在 電話帳

調べ）。

この数は、対人口比率で考えても、全国的には比較的多い数字と言えます。しかし、このデータに、人口減少率を重ね合わせてみると、状況は一変します。国立社会保障・人口問題研究所の調査によると、今から25年後の2040（平成52）年には、東京の人口減少率が6.5%に留まる中、北海道の減少率は23.9%と試算され全国で下から15番目の減少率となります。

また、弊社の商圈である東北地方に於いては、秋田県ワースト1位（35.6%）、青森県ワースト2位（32.1%）、岩手県ワースト4位（29.5%）、山形県ワースト5位（28.5%）と、さらに厳しい見通しが立てられています。とりわけ、弊社が本店を構える函館市に目を向けてみますと、昨年2014（平成26）年にすでに市内全域が過疎地域に指定されており、2040年には、現在27万人いる人口がわずか17万人まで減少すると試算され、その減少率は約37%と全国ワースト1位の秋田県をも超える惨状が予測されるのです。当然ながら、函館の周辺市町村などは「限界集落」を通り越し、「消滅可能性都市」などと噂されています。その時、この街にいったい何軒の呉服店が残っていられるのでしょうか。

北日本市況④

～今、残っている呉服店には“愛”がある～

人口が減ると言うことは、子供が減ることであり、業界にとって頼みの綱とも言えた振袖の販売量もじわじわと減少

し、京友禅協同組合連合会のまとめによると、生産量はこの10年で4割以上も減少しました。

さらに高級品消費の低迷も加わり、日本人のきもの離れにはもはや歯止めがかからず衣料品としての寿命は風前のともし火です。このままでは、そう遠くない未来には、浴衣（ゆかた）と祭り衣裳のみをのこし、和装の文化は消滅する事でしょう。この業界に席を置く者ならば、誰しもの感じる危機感です。加えて、弊社の商圈である北日本地域の中には、2011（平成23）年の東日本大震災で大きな被害を受けた地域も少なくありません。

しかし、これだけの悪況にもかかわらず、当該地域では、多くの呉服店が今も商いの暖簾を上げ続けており、その中には次の世代である跡継ぎにバトンを渡し、今後も継続した商いを続ける確かな“意志”を持った呉服店も少なくありません。弊社が問屋の立場として、多くの地域を周らせて頂き、強く感じるがあります。

それは、現在残っている呉服店の多くは「和装文化」に対して、深い愛着を持っているということ。そしてそれらを「今後の日本に継承していく」という、強い使命感を感じながら商いをしているということです。

このような呉服店の多くは、前述の「消費者セール」型の販売からすでに脱却をし、単純に“良い商品”を取り扱うことに対して深い理解があります。かつ、「消費者セール」中心の時代の呉服店と比べると、は

るかに膨大な商品知識を有しているのです。

問屋としてできる事①

～今だからこそ再考する～

弊社もまた、同じ時代を生きる和装関連企業です。呉服からの撤退ではなく、これからは“きものの素晴らしさを伝えてゆきたい”と考えたとき、弊社現社長・岩崎義則が、現在の和装業界に対して常々思うところがあったのが「お仕立」についての現状でした。きものはその構造上、身丈（みたけ）が足りてさえいれば、まあ何とか着れてしまいます。そのため、販売現場にはお仕立に関する知識が乏しく、身長と体重しか聞かないような適当なお仕立が相変わらず溢（あふ）れているのです。上代5万円程度の男性物のイージー・オーダーのビジネススーツでも、もっと細部までしっかりと採寸してお仕立をすると言うのに、本来フル・オーダーが基本であるはずのきもののお仕立がそれでは、着づらかったり着くずれを起こしやすかったりで、本来の素晴らしさを伝えられるはずもありません。

また、使用される胴裏についても同じことが言えます。現在お仕立に使われている胴裏のほとんどは、安価な輸入品です。やや細めの絹糸を経・緯の糸の割合を経糸がやや多くなるようにして織られていて、このようにして織られた胴裏は、つるつるとした肌さわりで見栄えは良いのですが、着用すると、とても着崩れを起こしやすく、快適な着心地と美しい着姿を保つためには

適さず、決して良い胴裏とは言えないのです。“オーダーきものを「より着やすく」「より安く」という、弊社の創業時の精神とはかけ離れた実状が広がっていたのです。

問屋としてできる事②

～本当に“良い”胴裏地を追い求めて～

それは、快適な着心地と美しい着姿です。「着物＝“着る物”」という、本来の意味に立ち返り再考したとき、頭に浮かんできたのは、もう何十年も前に弊社で初めて企画制作したあの絹紡糸の「胴裏」でした。当時の生地をヒントに、「着付けをしやすく肌さわりの良い“滑らかさ”と「着崩れを起こしにくい快適な着心地のための“絶妙な滑りにくさ”」のバランスを追い求め、様々な糸や織り方を研究した結果、31 デニールという胴裏生地に使用するにはやや太めな糸（現在胴裏の主流はほぼ21 デニール）と、縦・横の糸を50対50にするという織の比率にたどり着きました。

そしてもう一つ、強く思うところがあったのが“糸の産地”でした。現在、国内で消費される絹のほとんどを中国やブラジルからの輸入に頼る中、輸入生糸の中にも相当な高品質なものが存在するもの事実です。しかし、我々が守るべき和装文化の根底には、かつてこの国が「絹の国」と呼ばれるほどに良質な絹を大量に生産していたという“誇り”があります。そのために、どうしても国産繭からこの胴裏生地を生産したいと考え、模索をしていたところ、縁あって碓氷製糸農業協同組合から、群馬県

ブランド蚕品種の「ぐんま200」という蚕をご紹介頂いたのです。この品種から繰られる生糸は、節が少なく極めて白度が高いのが特徴で、胴裏生地にとっても適しており、この蚕品種の極上の春繭から繰りだした生糸を100%使用することにより、美しい絹の輝きと白さをもあわせ持たせる事が出来ました。春繭は、桑が芽吹き一番栄養のある桑の葉を食べて育つため、質がよく超高級品として扱われています。

こうして、弊社としては初めての「純国産絹マーク」使用許諾商品である胴裏が誕生しました。この胴裏は、美しい艶やかな見た目を保ちつつも、前述の“絶妙な滑りにくさ”を持ち合わせ、着付けし易く、着くずれしにくいのはもちろんのこと、やや太い生糸を使用して織られているため丈夫で筋切れもしにくく、また針通りも良いという特徴があります。「きもの」本来の目的である、より良い着心地と美しい着姿を追求し、原料となる糸から厳選された「胴裏生地」なのです。



碓氷製糸農業協同組合で、「ぐんま200」を確認



碓氷製糸農業協同組合の繭袋

むすび

この胴裏の製品パッケージ内側には、弊社社長のお仕立に対する想いをこめ、お仕立て主の寸法を書き込むための寸法表を、過去の弊社企画商品と同じように印刷しました。また、関係して下さった各生産者のお力添えもあって、可能な限りの廉価を設定することも出来ました。問屋として、和装業界を生きるものとして、きものを愛するものとして、何ができるのか、どこまでできるのか。思案は尽きません。ですが、今このタイミングで弊社が創業時の精神を再考し、今回の胴裏生地を企画製作するに至ったことは、我々や、業界や、日本の絹の今後を考察する良い機会にもなりました。結果としてではありますが、この胴裏生地は、未来に対する弊社の“意志表明”のようなものになったと考えています。



胴裏（ぐんま200,31デニール）

来年、2016（平成28）年には弊社本店所在地である函館の街に北海道で初めてとなる新幹線が到達し、他地域とのより豊かな交流がスタートします。私たちは今後も、「より良いきもの」に対して真摯に、北日本・東北地域に根差した商いの暖簾を上げ続けてゆこうと思います。

■岩崎慶介（いわさき・けいすけ）のプロフィール

株式会社丸本岩崎（まるほんいわさき）次長

〒041-0824 北海道函館市西桔梗（ききょう）町589-56

電話：013-849-4151

FAX：013-849-6598

E-mail：maruhon55@gmail.com

第3回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール 農林水産大臣賞受賞者は、“絹を未来に” プラチナボーイ研究会に決定

一般財団法人大日本蚕糸会

選賞の経緯

一般財団法人大日本蚕糸会と中央蚕糸協会共催による「第3回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール」の対象となる参加資格は、提携グループ、養蚕農家及び農家団体とされている。

全国から提携グループ8件、農家23件、養蚕農家集団1件、総数32件応募があった。去る4月9日（木）、同コンクールの審査会（審査員5名。審査長：黄色俊一東京農工大学名誉教授）が開かれた。先ず、一次選考では、審査資料が揃っているか否か、基準に達しているか否か、地域性なども考慮して第1次審査を行い、提携グループ3件、養蚕農家9件、農家団体1件を選

出した。本審査会では細部審査個票をもとに、個々の出品財の内容を精査し、農林水産大臣賞に「“絹を未来に” プラチナボーイ研究会（提携グループの部：代表は株式会社マルシバ：東京都）」、農林水産省生産局長賞に「五十畑茂・啓子（いかはたしげる・ひろこ）夫妻（農家の部：栃木県）」、一般財団法人大日本蚕糸会会頭賞に「朝日村まゆの花の会（養蚕農家集団の部：代表は横井栄子：新潟県）」及び「近江真綿振興会グループ協議会（提携グループの部：代表は北川茂次郎：滋賀県）」を選出した。

5月15日（金）、東京都千代田区有楽町蚕糸会館で受賞者を始めとする関係者が出席し、表彰式が行われました。



主催者を代表して挨拶する高木賢会頭



農林水産省鈴木良典生産振興審議官の挨拶

農林水産大臣賞：“絹を未来に” プラチナボーイ研究会

プラチナボーイは、雄繭だけで繰製された白く輝く高品質な生糸をイメージして命名された特殊な蚕品種である。普通蚕品種では雌（染色体はZW）と雄（染色体はZZ）が1：1の割合で孵化するが、プラチナボーイは2本のZ染色体の少しずれた位置に致死遺伝子を導入した特殊な雄と普通の雌を交配するので、雌の卵が孵化せず雄のみが孵化し、いわゆる雄蚕飼育が実現された蚕品種です。

この提携グループにおいて、製品の販売拠点である（株）銀座もとじは、全国の呉服店では主に女性のきもの販売が目的であるが、男のきものを販売する呉服店もあるべきと考えていたところ、プラチナボーイの存在を知り、この10年間プラチナボーイを原料とした男のきものを中心に、ものづくりと製品販売に取り組んでいる。プラチナボーイのきもの特徴は、軽くて光沢があり、着て心地よく肌ざわりが良く、装う姿も美しいという素材の良さから存在感にもつながると評価が高まり、愛好家も増えている。

1,200kg余りの原料繭は、千葉県及び茨城県の卓越した飼育技術を持つ4戸の養蚕農家によって生産されているが、コーディネーターの（株）マルシバと販売の（株）銀座もとじが積極的にグループ内交流を進め、繭生産者の氏名を製品に明記することによって、養蚕農家の生産意欲の高揚や農家経営の継承につなげている。



農林水産大臣賞を受賞した“絹を未来に”
プラチナボーイ研究会の皆さん

製品としては、後染反物（作家作品）、後染帯地、先染反物（大島紬、結城紬、御召、作家作品）、先染帯地（作家）、帯締、羽織紐、八掛、胴裏などであり、提携グループとしての成果が認められている。今後ともグループ関係者の元気が出るように繭生産から、繰糸、染色、織りに至る一貫した顔の見える製品づくりを目指したいとしている。

また、店が立地している銀座の柳の葉を使った草木染めを試みたり、銀座でのカイコの飼育展示や体験学習活動も行い大いに話題づくりからマスコミに露出して地域にも貢献してきた。このように、蚕品種の育成、養蚕、製糸、染色、織り、仕上げまで、関わった人の名をすべて証書に記載しているので、責任あるものづくりから製品販売までの提携グループが繭生産地域との連携を深め、我が国の蚕糸・絹業の維持・発展に大きく貢献していることが高く評価された。

農林水産省生産局長賞：五十畑茂・啓子夫妻

栃木県のJA おやま・三拝（さんばい）地区は大規模養蚕農家が多い平坦な畑作地帯で

ある。五十畑氏の経営は、年間4回の掃き立てで2,000 kg以上の繭を生産するとともに、家族労働力（夫妻）を生かした繭生産と野菜（春大根・牛蒡（ごぼう））を主とする複合経営で年間11,000千円の粗生産額を上げている。蚕室など施設の合理的設置と効率的活用を行い、蚕室は春・晩秋蚕期は中・壮蚕室、上簇室として利用し、晩秋蚕期終了後は、牛蒡の選別場所、春蚕期前には、春大根の洗浄と選別出荷場所として使用している。

養蚕の技術レベルは極めて高く、日本一といわれる桑園管理技術で単収が143kg、年間で選除繭歩合は極めて低く、解じょ率はいずれの蚕期でも85%以上であり、常に創意工夫と消毒などの新技術の導入によって蚕病は見られず、省力養蚕と蚕作の安定が図られており、優良繭の生産技術が確立されている。養蚕農家としては地域におけるリーダー的存在で、栃木県名誉農業士に認定され、昨年从小山市の本場結城紬に原料繭を提供するなど高い評価を受けている。このように、模範的な養蚕作業体系を確立し、夫婦二人による安定した「養蚕＋野菜」の複合経営を確立したことが評価された。



農林水産省生産局長賞を受賞した五十畑茂・啓子夫妻

大日本蚕糸会会頭賞：朝日村まゆの花の会

朝日村まゆの花の会は、昭和40年代には新潟県における最大繭生産量地域である。その後、生糸の輸入増大の影響を受け養蚕規模が減少傾向にある中で、朝日村養蚕婦人部が「養蚕婦人が繭クラフト作りをしている」という山形県天童市の事例を聞き、婦人部の研修として現地を訪問したことからその活動が始まった。昭和61年、シルクのコサージュ作りをしている中で、繭クラフトの楽しさを経験した養蚕婦人部の仲間19人によって「朝日村まゆの花の会」グループが立ち上げられ、地元道の駅のオープンと同時にもの作りと販売に取り組み、現在に至っている。

現在、JAにいがた岩船管内の養蚕農家は8戸で、繭生産量は125kgとわずかなはあるが、地区の女性によって起業された「朝日村まゆの花の会」は13名の会員で、シルクフラワー、各種クラフトのほかに桑抹茶づくり、体験工房、まゆ花教室などにより、地域の経済活動・活性化に大きく寄与していることが評価された。



大日本蚕糸会会頭賞を受賞した朝日村まゆの花の会

大日本蚕糸会会頭賞：近江真綿振興会グループ協議会

近江真綿の特徴は、江戸中期以降から続く100%手引き真綿であることである。近年、真綿需要の減少と輸入真綿の圧力に押されている状況から、我が国養蚕農家の規模が縮小していく中で、伝統ある養蚕を残すことと、広く一般社会に国産繭を原料とした「真綿」の良さを感じてもらうことを目標に蚕糸・絹業提携グループを構築した。

年間2,800kgの繭を使って真綿布団、布団側生地（がわきじ）、ショールなどを生産し、販売している。原料繭は愛媛県の5戸の養蚕農家によって生産・供給されている。養蚕農家には極めて高額な繭代金が支払われており、このことから各農家の生産意欲と経営改善意欲につながっている。提



大日本蚕糸会会頭賞を受賞した
近江真綿振興会グループ協議会

携グループの構築は平成23年であるが、年に1～2回の全体交流会を開催している。特に、抗酸化・抗菌機能を有するといわれている着色繭を使った純国産真綿布団の製造・販売の取組と近江真綿の復活を目指している活動が評価された。

シルク遺産を訪ねて②

絹糸紡績資料館 ーシナノケンシ株式会社企業博物館ー

東京産業考古学会

副会長 平井 東 幸

この資料館は、シナノケンシ株式会社が創業 80 周年記念事業の一つとして平成 10（1998）年に開館した企業博物館である。絹糸紡績としてはわが国唯一であり、平成 19（2007）年度には経済産業省の「近代化産業遺産」に認定されている。同社の歴史はもとより、かつて世界生産の 6 割を占めたわが国の絹糸紡績の歴史をパネルと写真等で後世に伝えている。

開設の経緯については、同社が「国内最後の絹糸紡績企業であることの責任と使命から決断した」「その後、業界団体である日本絹紡協会の閉鎖に伴い、その資料をす

べて引き継いだ」と、初代館長の酒井氏は述べている。なお、同氏は、この資料館開館の功績により平成 16（2004）年に産業考古学会から保存功労賞を受賞している。

資料館の建物は、木造平屋で床面積 156 m²と決して大規模ではないが、のこぎり屋根がなかなか印象的である（写真 1）。昭和 23（1948）年建設の紡績工場を現在地に移築、のこぎり屋根の窓は日光に弱いシルクに配慮し北側に配するが外観を考慮し南側に向けて移設した。屋根と窓サッシ以外はすべて再利用しており、建物自体が当時の模様が彷彿（ほうふつ）とさせ、文化財的価値がある。



写真 1 絹糸紡績資料館外観



写真 2 絹糸紡績資料館全景（内部）

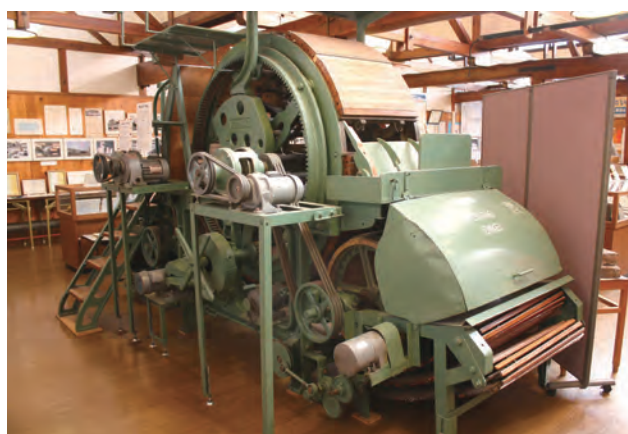


写真 3 円形梳綿機



写真 4 切綿機



写真 5 金庫

展示についてみると、機械は 2 台だけだが、副蚕糸から始まって絹糸紡績の工程のパネルや写真、同社の創業以来の文物、絹糸紡績関係の文献、郷土の資料、C D・D V Dなどが多数展示されている（写真 2）。その所蔵数は、収蔵目録によると、絹紡糸・原料・製品・文献などの陳列ケース 12 個、写真・パネルが 170 点、同社関係が 32 点、映像音声資料が 37 点、さらに書籍類は日

本絹紡協会等から引き継いだものの多数、となっている。

主要な展示品としては、次のようなものがある。

- ①製綿用の円形梳綿機（写真 3）及び切綿機（写真 4）が珍しい。ともに大正 9（1920）年大阪石井鉄工所の製造で、タイ工場からの里帰りであり、この両機の歴史を語っている。

②日本絹紡協会の資料・・・同協会は平成 10（1998）年に解散したが、その際に書籍、統計等のすべてを引き継いで保存している。これは産業研究、企業研究にとっても重要。

なかでも、同会による『本邦絹糸紡績史』の未刊の稿本は昭和 8（1933）年頃のもの。

③「毛筆書き庶務日誌」は同社創業以来の当時の社会情勢を含めた記述あり、このほか創業時から使用した金庫（写真 5）、当時の社長の机、各種事務器具、文房具類など同社の歴史を示す様々な史料が展示されている。

④映像資料としては、地元丸子町の産業組合法に基づく有限責任販売組合の雄であった依田社の記録映画「依田社の記録」（大正 10（1921）年制作、米国向けの P R 映画）が当時の状況を知るのに貴重である。

同社の歴史を振り返ってみよう。大正 7（1918）年に金子行徳氏が長野県初の絹糸紡績会社として信濃絹糸紡績(株)を依田社等の協力も得て創業、以来、曲折はあったがこの地域の絹糸紡績事業の中核として発展した。戦後は早くも昭和 37（1962）年に電気機械部品製造に進出し経営多角化を図っている。紡績業と電子部品工業との間には、技術的なつながりは殆どなかったが、成功したのには、信州が戦時中からの機械関係の工場疎開で基盤があったこともあるが、それよりも同社の企業としての人的、経営的なリソースがそれまでに大きく蓄積

されていたことが主因であろう。

昭和 62（1987）年には、タイに、シナノケンシタイランドを設立、国内から機械設備を順次移設した。最盛期には、20,800 錘を擁（よう）したが、リーマンショックの影響もあり、平成 22（2010）年には、同社を現地資本に売却、絹糸紡績の 90 年余りの歴史に幕を降ろしている。現在は従業員約 5 千名（うち、国内は約 8 百名）を擁して各種小型モータとその制御ユニットの製造を中心に中国に 2 工場を配し、世界各地に販売会社を設立してグローバルに事業を展開している。順調な事業経営があったからこそ初めて資料館運営も可能であると実感した。

絹糸紡績の歴史は、周知のように、明治 10（1877）年に群馬県新町（現在の高崎市）に官営の新町紡績所の開業にさかのぼる。以来、鐘紡、富士紡、日東紡、大日本紡等の大手企業が参入し、紡績設備のピークは昭和 12（1937）年の 46 万錘であった。冒頭で述べたように当時は世界生産の 6 割を占めた。しかし、平成 15（2003）年にはシナノケンシが国内での絹紡糸生産をすべて終了しタイに生産を完全に移設、これによってわが国の絹糸紡績は収束した。なお、その後も家内工業としては操業しており、現在も愛知、滋賀で特殊用途に少量の生産が続いている。

最後に、取材しての感想と希望であるが、発祥の事業である絹糸紡績を事業撤退後も、資料館として常時開館していることに敬意を表したい。希望としては、収蔵史

料には貴重なものがあり、これらは市ないし県の文化財指定を検討して頂きたいと思う。それによって、資料の価値が公的に認められることになり、集客、保存と展示によりプラスになるからである。また、長野県内はもとより群馬県の多くのシルク関連施設とのコラボによって一層の集客を図られると、地域の振興にさらに貢献すると期待している。

なお、この取材で、インタビューにも快く応じて下さり、各種資料の提供も頂いた田中守明館長並びに初代館長の酒井昭水氏に感謝申し上げる。

(写真はいずれもシナノケンシ株式会社提供)

■名称：絹糸紡績資料館

■所在地：〒366-0498

長野県上田市上丸子1078

■アクセス：JR 北陸新幹線上田駅下車、車で25分、バスもある。

■開館日時：平日の8時30分から18時まで（会社の営業時間内）

■入館料：無料

■問合せ先：シナノケンシ株式会社

Tel :0268-41-1800、Fax:0268-43-0010

生糸電子検査国際標準の紹介

中国丝绸協会秘書処 主任 劉 文全

中国丝绸標準化技術委員会 秘書長 周 穎

中国蘇州大学紡織と服装工程学院 教授 費 万春

はじめに

生糸品質の主要な指標は糸条斑（糸むら）、大中節及び小節で、通常、伝統の黑板検査法（セリプレーン検査）で検査します。1920（大正9）年代、日本が主導して生糸検査の国際標準を作成しました。1925（大正14）年ごろ、横浜生糸検査所は初めて黑板検査法を採用し、生糸の糸条斑（糸むら）、大中節及び小節を検査しました。黑板検査法の検査成績は、ある程度、検査員の技術、経験や気分などの主観的要因の影響があります。検査の客観性を高めるために、1980（昭和55）年代から、

一部の生糸生産国と消費国は電子測定方法で生糸品質の検査を研究し始めました。2000（平成12）年以降、中国、日本、イタリアなどは生糸電子測定技術の組織的な研究を展開し、関連分野が大きく進歩しました。

2009（平成21）年10月、ISO（国際標準化機構）に中国が提出した『生糸電子測定試験方法』国際標準制定の提案が承認され、日本、イタリア、スイスなど9か国の専門家が共同で検討に参加しました。4年余の時間を経て、2014（平成26）年5月1日、ISOは正式に生糸電子測定国際

セリプレーン検査の写真



横浜生糸検査セリプレーン板巻き取り 1926 年（昭和初期）（左）、節検査 1990 年（平成初期）（右）

標準、すなわち ISO15625：2014《絹—生糸の節と糸むらの電子検査方法》（Silk — Electronic test method for defects and evenness of raw silk）を承認し、発表しました。この標準は、伝統の黒板検査法を補完して、世界シルク業界の生糸検査技術水準と検査効率の改善と国際シルク貿易のルールに重要な手段を提供します。

生糸電子測定国際標準は、静電容量センサーと光電センサーの生糸電子測定装置を採用し、生糸品質を左右する節と糸むらを測定する検査方法です。適用範囲、用語と定義、測定原理、計測器、欠点（節）の分類と計算、検査の条件とパラメータの設定、測定プログラムなどの一般要求と特定要求から構成されています。これから、この標準の主な内容を簡単に紹介します。

適用範囲 13.3dtex ～ 76.7dtex（12 デニール～ 69 デニール）の捻造（総（かせ）づくり）生糸及びコーン巻生糸、並びに浸漬糸（ソーキング生糸 soaked silk）及び浸（つ）けない生糸（ソーキングされていない普通の生糸 raw silk）。浸漬糸（ソーキング生糸）は、抱合（ほうごう）が良くない生糸、裂（さ）け節を検出でき、一方浸けない生糸（ソーキングされていない普通の生糸）は抱合が良くない生糸、裂け節などを検出できません。生糸の正確な品質状況が反映される実用的な手法です。

用語及び定義 生糸電子検査方法は新たな測定システムなので、新しい標準では重要

な用語、例えば電子検査方法、スラブ（ずる節）、細斑（細節）、コケ節（小節 S I E）、糸むら evenness —糸むら変動係数 $CV_{\text{even}}\%$ 、5 m 変動係数 $CV_{5m}\%$ 、50m 変動係数 $CV_{50m}\%$ 、 $CV_{\text{between}}\%$ （1 cm 毎の糸長の質量から計算された試料体積の変動係数）を明確に定義して、この標準の使用時に理解の整合性がとれるようにしています。

測定原理 生糸が一定速度で電子センサーを通過する時、センサーで料糸の太さの変化や生糸速度などのデータを集積して、計算がなされて、最終的に様々な欠点（節）と糸斑変化（いとむらへんか）を検出します。本標準は二つのセンサー、静電容量センサーと光電センサーを同時に使うことと規定されています。

静電容量センサーでは、光電センサーが糸斑（糸むら）を正確に測りにくい点を補完し、光電センサーでは、静電容量センサーが裂（さ）け節や輪節（わぶし）などを計測できない点を補完します。

測定装置 生糸電子測定機は単軸又は多軸が可能であり、静電容量測定装置及び光電測定装置、信号処理ユニット、設備ラックの三つの部分で構成されています。光電測定装置では、スラブ、細斑、コケ節を計測し、静電容量測定装置では、スラブ、細斑、コケ節、糸条斑を計測します。

信号処理ユニットは測定プロセスを制御し、出力信号の処理並びに欠点及び糸条斑

の計算をします。設備ラックは生糸が一定の速度と張力で滑らかにセンサーを通るようにすること。

設備設置 この標準は測定速度を（600 ± 30）m/min と、浸漬糸なら（1000 ± 50）m/min と規定します。測定の時、予（あらかじめ）め張力を（0.20 ± 0.05）cN/dtex と設定します。検査料糸の全長は 150 km です。

料糸（サンプリング）作り 料糸は従来通り、荷口（600 kg）ごとに料糸見本を抽出します。捻造生糸なら、ランダムに 24 捻（かせ）を抽出し、捻造毎に測定の長さは 6.25 km 以上です。コーン巻生糸なら、12 コーンをランダムに抽出し、コーン巻生糸毎に測定の長さは 12.5 km 以上です。

測定項目 大ずる節、小ずる節、スラブ、細斑及びコケ節は黒板検査法の大中節及び小節指標に対応し、生糸の大、中、小欠点（節）を反映し、各測定軸の測定結果を集計して、長さ 10 万メートルの数値に換算します。

CVeven %、CV5 m % は黒板検査法（セリプレーン検査）の糸斑（糸むら）変化指標に対応し、そのうち、CVeven % は 1 cm 生糸長さの間の質量変動係数で、CV5 m % は 5 m 生糸長さの間の質量変動係数で、短糸長生糸の糸斑（いとむら）変化を反映します。CV50m % は 50m 生糸長さの間の質量変動係数で、生糸の織度偏差に対応し、長い生糸の織度変化を反映し、各軸数

値平均値で、織度変動係数を計算します。CVbetween % は荷口の各捻造又は各コーンの生糸の織度変化を反映します。

欠点（節）の計数と分類 付属文書 A（規定）で、欠点（節）の分類、測定項目及び欠点（節）種類の分類を規定します。

ずる節分類 ずる節を大ずる節と小ずる節の 2 大分類に分け、更に 25 の小さな分類（SA、SB、SC、SD、SE 区）に分けて、大ずる節は SA4 ～ SE4、SA3 ～ SE3、SC2 ～ SE2 及び SD1 ～ SE1 区で組み合わせられる。小ズル節は SA2 ～ SB2、SA1 ～ SC1 と SA0 ～ SE0 区で組み合わせられます。ずる節の分類については、大ずる節は節取（ふしとり）の処理ができ、小ずる節は絹織物の品質へ影響しやすい。なお、大小ずる節の区間設定はユーザーの要請によって変更されます。

大小ずる節の長さとおさの設定

ずる節は節の長さとおさで設定します。伝統的生糸検査は、大ずる節、小ずる節、ぶり節、中つなぎ節等の節の長さがそれぞれ 2mm、7mm、10mm、20mm で分けます。この標準設定のための実験によって、伝統的検査法が生糸ずる節の長さと同じく、即ち、1-2mm、2-7mm、7-10mm、10-20mm、20mm 以上五つ区間で分けます。

太さは生糸の質量（断面積）平均値の +80%、+100%、+150%、+250%、+400%

で設定します。ずる節の区分は図 2 に示します。

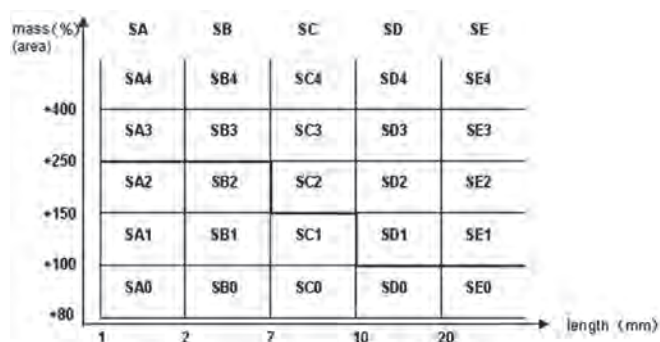


図 2 生糸ずる節分類図（光電法と静電容量法）

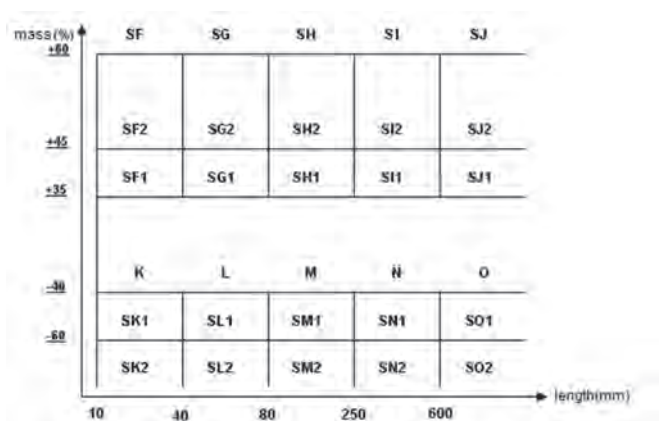


図 3 スラブ（ずる節）、細斑（細節）の分類（静電容量法）

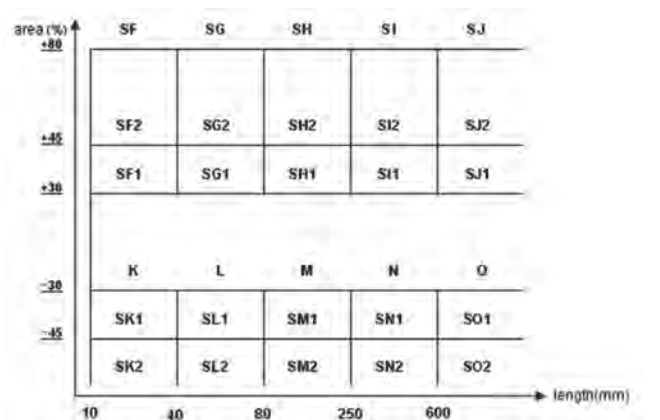


図 4 スラブ（ずる節）、細斑（細節）の分類（光電法）

スラブ、細斑の設定

静電容量法と光電測定法のスラブ及び

細斑の分類は図 3-4 に示します。スラブは 10 の小分類（SF、SG、SH、SI、SJ 区）に分け、細斑は 10 小分類（SK、SL、SM、SN、SO 区）に分けます。

こけ節（小節 SIE） こけ節は生糸の表面に付着して、緊密（細かく）縫（もつ）れた小さな節で、伝統検査法の小節に対応します。この標準ではこけ節は長さが 1mm 以下と質量又は断面積が平均値の 80% 以上の微小節と規定します。

むすび この標準は、光電センサーと静電容量センサーで生糸欠点（節）の検査の違いを説明し、実験室で浸漬糸の作り方を規定し、電子検査結果の例を提供し、各国の 4 か所の実験室の同型静電容量センサーと光電センサーで 3 荷口の浸漬糸の測定結果を提供して、測定方法毎の測定精度の実験データを提供しました。

生糸電子検査国際標準の発表は、中国、日本等標準参与国から ISO 国際標準への貢献によります。この新しい方法と伝統的な生糸検査法の二つの方法とも生糸品質を検査でき、この新しい方法は伝統的な生糸検査法に代わるものではなく、この新方法の効果的な補完と充実がより生糸品質を表現できるものです。現代科学技術の発展に伴ない、コンピュータを用いた電子測定技術は向上しており、中国は引き続きこの領域の研究を強化します。シルクの生産指導、品質向上、国際貿易促進のために、各生糸生産国と消費国ができ

れば積極的にこの電子検査標準を採用することを希望しています。

この標準の開発期間中に、大日本蚕糸会及び関連企業の専門家が関心と応援を寄せられ、標準の試験に無料で検査料糸を提供され、何度も標準案の修正意見やアドバイスをされ誠に感謝致します。中国は無償で日本シルク企業に生糸電子検査サービスを提供致します。

今後、電子検査の技術と検査精度を向上させるためには、多くの電子検査データと検査された生糸を実際に使用した絹織物の特徴などの関連データを集積する必要があります。そのためにも、日本の需要者の皆様が電子検査の依頼を多くして頂き、将来の生糸検査の基礎をつくっていきたいと望んでいます。

本文は伍冬平さんの協力を頂きました、深く感謝致します。

(伍冬平 (Wu Dongping) : 浙江丝绸科技有限公司技師)

【連絡先】

徐進 (Xu Jin) : 中国 310012 杭州市文三路 2 号、中華人民共和国浙江出入境檢驗檢疫局糸類檢測中心、副主任

Emial: xuj@ziq.gov.cn

FAX:+86-571-56663000

TEL:+86-4008710118

【執筆者紹介】

劉文全 (Liu Wenquan) : 中国丝绸協會
秘書處 主任

連絡先 : 中国 100034 北京市西城区
西四北八条 56 号

TEL:+86-10-66180638

FAX:+86-10-66117363

E-mail:lwq678@qq.com

周穎 (Zhou Ying) : 中国丝绸標準化
技術委員會 秘書長

中国 310011 浙江杭州莫干山路 741 号

TEL:+86-571-88050339

Fax:+86-571-88083272

E-mail:silkzy@163.com

費万春 (Fei Wanchun) : 中国蘇州大学
紡織と服装工程学院 教授

連絡先 : 中国 215021 蘇州市干将東路
178 号 PB101

TEL:+86-512-67162478、

Fax:+86-512-67246786

E-mail:feiwch@suda.edu.cn

蚕の季節感

東京農工大学農学部蚕学研究室

准教授 横山 岳

日本は四季があり、変化を楽しめる。春になれば落葉していた木々が芽吹いてくる。筆者のいる東京農工大学辺り（東京都

府中市）では桑は4月中旬に開葉する。図1は3月下旬から10日ごとの桑畑の様子である。



3月下旬



4月上旬



4月中旬



4月下旬



5月上旬



5月中旬



5月下旬

図1 東京農工大学の桑畑（東京都府中市）

4月上旬に芽吹いてから日に日に葉が茂っていくのが分かる。一方、蚕は冬期を卵の状態ですごす。普通、蚕の卵は冷蔵庫で保護しているが、屋外に蚕の卵を置いておくともるでタイミングを合わせたように桑が開葉する頃に孵化してくる。冷蔵庫の無かった昔は4月から養蚕していたのであろう。しかし、4月、5月は霜が降りることがあり、霜害で桑葉が萎れて蚕が全滅した事を記した碑が群馬には多数建っている(図2)。



図2 霜災徴咎之碑(そうさいちょうひのひ)
群馬県安中市原市 2-10-4 絹笠神社内
旧碓氷(うすい)社本社事務所の隣

越冬した蚕の卵が孵化したら蚕を飼うしかないため、養蚕時期を調整することができなかった。現在では蚕の卵を冷蔵庫に保護するので、自由に孵化をコントロールすることができる。だいたい5月のゴールデン・ウィーク明けに孵化させ、稚蚕共同飼育所で2齢まで飼育させた後、5月中旬

に養蚕農家に配蚕される。養蚕農家は3齢から桑で飼育して6月上旬に営繭させている。養蚕農家の忙しい時期である。現在、田植えは5月上中旬だが、田植えが機械化される昭和四十年代以前は5月下旬から6月上旬だったらしい。明治の頃は、春先にまず養蚕をして繭を作ってから田植えをしていたが、養蚕の時期が段々遅くなる一方で、田植えが早まったために、養蚕と稲作の作業が逆になり、忙しい時期が逆転したようだ。

関東甲信越では例年6月上旬に梅雨入りし、この時期に養蚕農家は上簇を行っている。上簇期は湿度を下げた方が良い繭ができるのだが、糸を吐き始めた蚕は1万頭で20Lもの水分を放出する。このため湿度が高くなるので空気を循環させ、風通しを良くして湿度を下げなければならない。湿度を下げなければならない上簇期が、何故、梅雨時なのか。冷蔵庫の無い時代は4月下旬、5月上旬に孵化した蚕を育て梅雨入り前の乾燥した5月中に上簇作業をしていたが、霜害を避けて蚕の飼育時期を遅らせたこと、遅く掃き立てた方が図1に示したように桑葉が茂り、桑の収量が増えて大量飼育が可能となること、他の農作業との兼ね合いなどから春期の養蚕時期がだんだん遅くなり、6月に上簇作業を行うようになったのであろう。桑が余っている場合や飼育量を減らしている場合、掃き立てを少し早くして上簇を5月中に行うと繭質が向上するのではないだろうか？ 現在、稚蚕期は人工飼料育が可能であり、昔のような大きな霜害は避けられるのではないだろうか。



図3 日本の養蚕農家の上簇作業
白いものはすべて熟蚕
東京農工大学蛭木理（になぎ・おさむ）名誉教授提供

飼育室で上簇させると湿度が下がらないため、飼育室からすべての幼虫を拾い上げ、風通しの良い上簇用の部屋に移して湿度を下げながら営繭させている。図3は日本の養蚕農家の上簇作業のものだが、白く見えるのはすべて繭を作る直前の幼虫（熟蚕）である。このように何万頭の幼虫をほぼ1日で拾い上げなければならないので上簇は大変な作業である。それに対して乾燥しているヨーロッパやブラジルの養蚕農家では幼虫を拾い上げることなく、飼育室でそのまま自然上簇させている。図4はブラジルの飼育室である。飼育しているところ（蚕座）に回転簇を置き、簇に蚕を登らせた後、簇ごとを吊るしている。大量の尿が排泄されている筈だが、飼育室（兼上簇室）はカラカラに乾燥している。日本の養蚕農家は多湿という環境に恵まれない分を労力と技術でカバーして繭質を向上させてきたのだろう。

話を再び温度に戻して、私たち人は恒温動物なので 体温は気温に関わらずいつも一定で、体温が1、2℃上がっただけで



図4 ブラジルの養蚕農家の上簇
画像が黄色いのは窓を黄色のビニールシートで覆っているため

具合が悪くなる。蚕は変温動物なので「気温」＝「蚕の体温」である。10℃以下では発育が止まり、気温が10℃以上になれば発育する。10℃になれば発育が止まるので発育ゼロ点という。寒ければ発育が遅れ、暖かければ発育が早くなる。例えば飼育温度15℃と20℃を比較すると、飼育温度15℃では10℃から5℃分高く、気温20℃では10℃より10℃分高いので、飼育温度20℃では飼育温度15℃の2倍速く発育する。「飼育温度20℃で1日の発育」と「飼育温度15℃で2日の発育」は同じになる。実際の飼育は28℃～20℃位の間で行い、寒い時は暖房を入れて発育を調整している。暑い時は冷房を入れて飼育温度を下げるものだが、冷房を入れると冷房費が高つくので、風通しを良くして飼育室の温度を下げて調節している。

現在の養蚕農家は温度管理をしっかりしているものでいつ繭を作るか予定が立つが、昔は飼育温度を制御することが難しかったので予定が立て難かったろう。しかし、蚕の飼育に温度が関係することは江戸時代か

ら知られており、温度管理が大切だと考えた福島県梁川（やながわ）の蚕種業者中村善右衛門（なかむら・ぜんえもん）は天保（てんぽう）14(1843)年独力で温度計「蚕当計（さんとうけい）」を開発して、嘉永（かえい）2 (1849) 年「蚕当計秘訣（さんとうけいひけつ）」という冊子をつけて普及を図っている。江戸時代の農民が独自に温度計を作っているとは驚きである。筆者はガラス管を与えられて果たして温度計を作れるだろうか？脱帽である。ちなみに日本で初めて温度計を作ったのは平賀源内、世界で初めて作ったのはガリレオ・ガリレイとのこと。残念ながら折角の温度計は江戸時代にそれほど普及しなかったようだが、明治になると全国の養蚕農家が温度計を使うようになった。それまで勘に頼っていた温度管理を温度計の目盛でできるようになり、作柄の安定に寄与している。

世界遺産に登録された田島弥平旧宅の屋根には小窓が設けられている（図5）。この



図5 田島弥平旧宅 文久3年(1863)築
群馬県伊勢崎市境島村 2243

窓から暖かい空気を逃がして、飼育室の温度を下げるという工夫がされている。それ



図6 18世紀末に建てられた大型の養蚕農家
群馬県中之条町大道 1274 富沢家住宅

以前の養蚕農家ではこのような小窓が付いていない（図6）。その後、屋根裏を仕切って飼育室ごとに熱を逃がすことができるように改良されていった。図7は世界遺産に登録された高山社跡の蚕室、図8は高山社



図7 高山社跡 明治24(1891)年築
群馬県藤岡市高山 237



図8 競進社模範蚕室 明治27(1894)年築
埼玉県本庄市児玉 2514



図9 高山社跡の飼育室

の兄弟校の競進社（きょうしんしゃ）の模範蚕室。飼育室の構造は換気に綿密な配慮がなされており、天井は簀子状（すのこじょう）になっており、熱気が抜けるようになっている。また、床も所々簀子状になっており、風が抜けるようになっている。また、床下の火鉢の火力で湿度を下げ、寒い時は暖房できるようになっている（図9）。このような屋根の上に小窓の付いた家を見かけると、昔養蚕していたことが想像される。

明治期に春期以外にも年に数回の計画的な養蚕が要望された。春蚕が産下した休眠卵を人工的に自由に孵化させることは当時できなかった。夏期の養蚕には年に2世代ある2化性の系統が産した非休眠卵を使うしかなかったが、非休眠卵は産卵後10日で孵化してしまうので母蛾検査ができず、微粒子病（びりゅうしびょう）の危険があった。休眠卵から孵化する蚕での養蚕が望まれたが、自然の温度に任せていては春以外に休眠卵からの養蚕は難しい。そこで考えられたのが、自然の冷蔵庫である氷穴と風穴の利用である。一年中低温の氷穴や岩

の隙間から冷気が噴き出る風穴が日本には各地にある。

観光地としても有名なのは富士山の麓にある「富岳風穴（ふがくふうけつ）」や「鳴沢氷穴（なるさわひょうけつ）」だろう。氷穴は自然にできた洞穴で、これをそのまま利用した。一方、風穴は山の斜面の石の隙間から冷たい風が吹いてくる所で、ここに石垣を組み、その上部に櫓（やぐら）を作って冷蔵庫として蚕の卵の貯蔵に利用した。

氷穴や風穴の利用により、春先の孵化の調整だけでなく、夏期や秋期にも計画的な蚕の飼育が可能になった。最初に蚕の卵を冷蔵したのは長野県松本市安曇（あづみ）の稲核風穴（いねこきふうけつ）とされている。初めて風穴を利用した者については不明であるが、その某が幕末（慶応年間）に横浜から輸出用として蚕の卵を売ろうとしたが叶（かな）わず、売れ残った卵をとりあえず稲核風穴に入れておき、夏に出庫したところ孵化させることができたのが最初の風穴の利用らしい。稲核風穴は現在でも冷蔵庫として利用されており、道の駅「風穴の里」の風穴では日本酒醸造に利用しているのを見学できる。

日本で初めて冷蔵庫が作られたのは明治32年で、明治35年には初めて蚕の卵の冷蔵が行われた。蚕の卵の保存に冷蔵庫が使えることが分かったが、当時、冷蔵庫は高価だったのであろう。冷蔵庫による卵の冷蔵は普及しなかった。それに代わって、風穴の利用が普及していった。大正時代には日本の200か所以上の風穴や氷穴が蚕の卵の冷蔵に使われており、現在でもその遺構

が各地に残っている。世界遺産に登録された「荒船風穴（あらふねふうけつ）」は最も規模が大きかった施設と言われている。世界遺産に登録される前は自由に石垣の中に入ることができたが、登録後は入れないようだ。近所のご老人に話を伺ったところ、子供の頃、冬にツララを石の隙間の奥に入れて置くと夏でも融けずに残っていたそうである。また、風穴を運営していた春秋館の人に頼まれて度々麓（ふもと）まで卵を運んでお駄賃をもらっていたそうである。

各地に残っている風穴や氷穴に行くと夏でも涼しさを感じられる。気軽に行けて遺構が形良く残っているのは群馬県渋川市の「榛名風穴（はるなふうけつ）」と長野県上

田市の「別所氷沢（べっしょこおりざわ）の風穴」だろう。どちらも伊香保温泉、別所温泉から車で10分、徒歩10分位で行くことができる。夏に研究室の旅行で「榛名風穴」に寄ったところ、大変涼しく学生が大喜びしていた。図10はその時の画像で学生がいる所は足元や石垣の隙間から冷気が噴き出ており、白くもやがかかっている。図11は「別所氷沢の風穴」で、石垣の高さが3.6mもある。上田市は蚕種業者が多かったのでこのような大きなものが作られたのであろう。夏でも10℃以下の温度であり、自然の涼を求めに夏休みの旅行で是非風穴を訪れてみては如何だろうか。



図10 榛名風穴
群馬県渋川市石原 伊香保森林公園内



図11 別所氷沢の風穴
長野県上田市別所温泉 別所森林公園内

■横山 岳（ヨコヤマ タケシ）のプロフィール

東京農工大学農学部

生物生産学科蚕学研究室

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8

TEL：042-367-5681

E-mail：ty.kaiko@cc.tuat.ac.jp

HP：http://www.tuat.ac.jp/~kaiko/

雌のみが孵化する新しい蚕品種の開発

一般財団法人大日本蚕糸会蚕業技術研究所

研究アドバイザー 大沼 昭夫

雄のみが孵化する蚕品種“プラチナボーイ”を開発し、すでに実用的な雄蚕飼育を行っています。将来、雌だけを必要とする場合を想定して、雌のみが得られる系統の開発を企画し、複雑な作成過程を経て、ほぼ計画通りに作り出すことができたので、その概略を紹介します。

雄のみが孵化する平衡致死の原理と作出

蚕の性染色体は図1の赤色で示したW染色体と緑色で示したZ染色体があります。WZが雌で、ZZが雄となります。

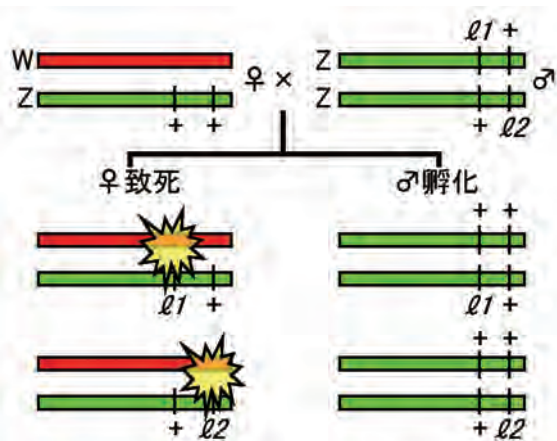


図1 雄のみを孵化させるZ染色体の平衡致死の原理

この基本的な染色体構成を踏まえて、劣性の致死遺伝子すなわちリーサル1 ($\ell 1$) とリーサル2 ($\ell 2$) を互い違いに持つ、

いわゆる平衡致死を作ります。この雄を普通の雌と交配すると、次代の雌はそれぞれの致死遺伝子の働きを抑える正常な遺伝子 (+) を持っていないため、劣性の致死遺伝子が働いて致死します。しかし、雄は $\ell 1$ と $\ell 2$ を抑える正常な遺伝子 (+) を持っているため、生存することができます。

しかし、雌が全部死んでしまえば、 $\ell 1$ と $\ell 2$ を持つ特殊な平衡致死の雄を維持することができません。そこで、致死遺伝子の働きを抑える二つの正常な遺伝子が存在するZ染色体の一部を放射線照射によって切り取り、それを繋げたW染色体を持つ特殊な雌を作りました。特殊な雄と特殊な雌を交配することにより、特殊な雄を維持し続けることが可能となりました (図2)。

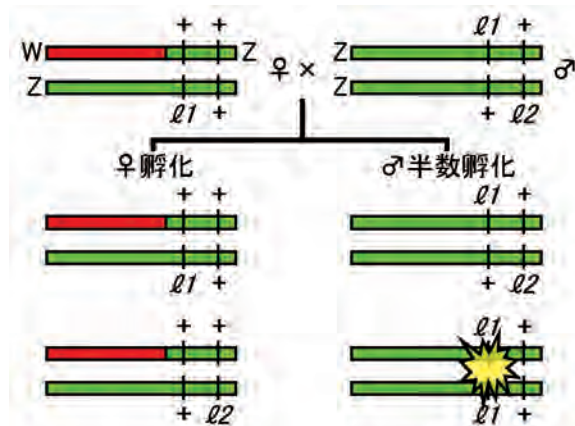


図2 平衡致死系統の染色体構成と遺伝子型

このようにして作った特殊な雄と雌が作る繭は貧弱だったので、りっぱな繭を作る中国種の実種と何回も交配し、約 10 年かかって繭の形質を向上させました。この平衡致死系統の雄を当研究所が保有する優れた日本種の実と交配させ、産まれた卵から孵化してきた雄だけの蚕が“プラチナボーイ”です。

雌のみが孵化する平衡致死の原理

プラチナボーイの場合、雌が致死しますが、理論的には雌だから致死するのではなく、劣性の致死遺伝子を抑える正常な遺伝子を持たないために致死遺伝子が働き孵化できないのです。

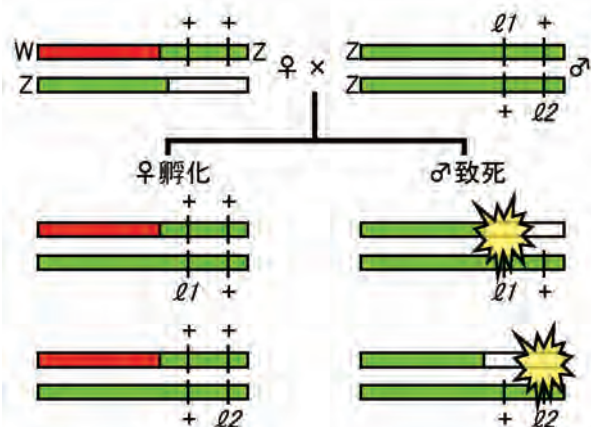


図3 雌のみを孵化させる平衡致死の原理

したがって、図3に示すようにWとZの一部が繋がった染色体とZの一部（白色部分）を失った染色体を持つ雌に、 $l1$ と $l2$ を持つ特殊な平衡致死の雄を交配すると、プラチナボーイの場合とは逆に、雄が $l1$ と $l2$ を抑制する正常な遺伝子(+)を持たないために致死し、正常な遺伝子(+)を持つ雌だけが孵化すると予想できます。

図2に示したように、WとZの繋がっ

た染色体、および $l1$ と $l2$ を互い違いに持つ平衡致死はすでに作出してあるので、Zの一部(++)を失った染色体を見つけ出すことにしました。検出の過程をわかりやすくするために、検出マーカーとして図4に示すような表現型に明瞭な特徴のある突然変異の系統を利用しました。

遺伝子 記号	+	<i>sch</i>	<i>sch^l</i>	+	<i>od</i>
形質名	正常 (黒蟻)	伴性劣性 赤蟻	伴性劣性 赤蟻致死	正常 (油対)	伴性劣性 od油
表現型					

図4 実験に用いた主な遺伝子と特徴

まず、伴性劣性赤蟻と伴性 od 油の遺伝子および劣性致死遺伝子($l3$)を持つ雄(図5の上段右)と、図5の上段左に示した変異の起こりやすい系統の雌とを交配しました。これは、雌のZ染色体の一部が失われた染色体の検出を容易にするためです。仮に、上段雌のZ染色体の赤枠内が失われると、次代の中に雄の欠失型 od 油(下段の緑の枠内)が検出されると予想されます。

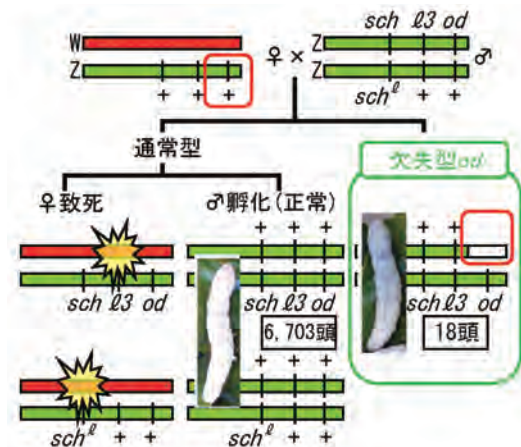


図5 変異の起こり易い系統雌に $sch\ l3\ od/sch\ l\ ++$ 雄を交配した次代における欠失型 od 油蚕の検出

このように設計すると、雌は全てが致死し、雄だけが孵化することになり、その中に欠失型 od 油の雄がいれば、1 齢の段階で簡単に検出できるものと考えられます。その結果、約 6,700 頭の中に 18 頭の欠失型 od 油の雄を見つけ出すことができました。

その中で、分析できた 10 頭はいずれも比較的大きな範囲を失った染色体を持つと推定されました。その内、最も揃いの良い区の雄を W と Z が繋がった染色体を持つ雌に交配して、まず図 6 の遺伝子型・染色体構成の系統を作りました。

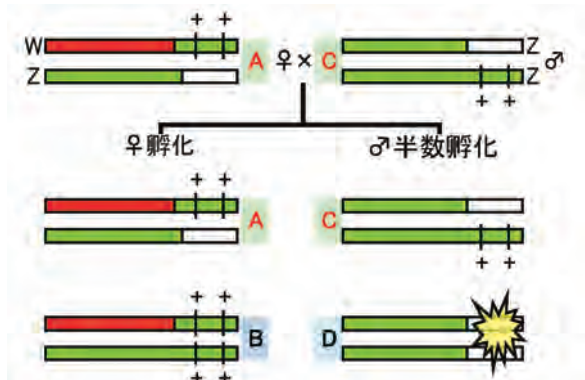


図 6 W と Z の繋がった染色体と欠失 Z 染色体を持つ系統の作出

A 雌と C 雄を交配すると、次代の欠失ホモ D の雄は致死し、父親と同じ遺伝子型を持つ息子 C だけが孵化します。しかし、雌では A、B ともに孵化します。その内、A 雌は図 3 で示したように次代に雌だけを得ることができますが、B 雌ではできません。

その改善策として、図 6 上段の C 雄の Z 染色体の欠失部位に近い、他方の Z 染色体に新たな致死遺伝子 (仮に $\ell 4$ とする) を見だし (図 7)、欠失部位とのいわゆる特殊な平衡致死 (C) を作ることを目指しました。この雄と A 雌とを交配すると、次代の B 雌は致死し、A 雌だけを得ることができます。

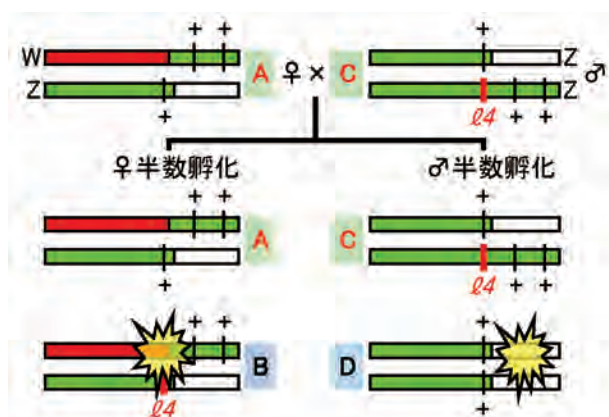


図 7 新たな致死遺伝子 ($\ell 4$) を持つ雄を交配して得られる特殊な平衡致死系統の想定と作出

そのため、まず新たな致死遺伝子 ($\ell 4$) を見出すことに努めました。

方法は、図 8 上段左の特殊な染色体構成の雌 (黒蟻; 蟻蚕の体色が黒色) に、同図上段左の赤蟻 (蟻蚕の体色が赤色) の平衡致死雄を交配すると、通常、次代の黒蟻となる雄は致死遺伝子 $\ell 1$ や $\ell 2$ を抑える正常遺伝子 (+) を持たないために致死し、正常遺伝子を持つ赤蟻の雌だけが孵化します。

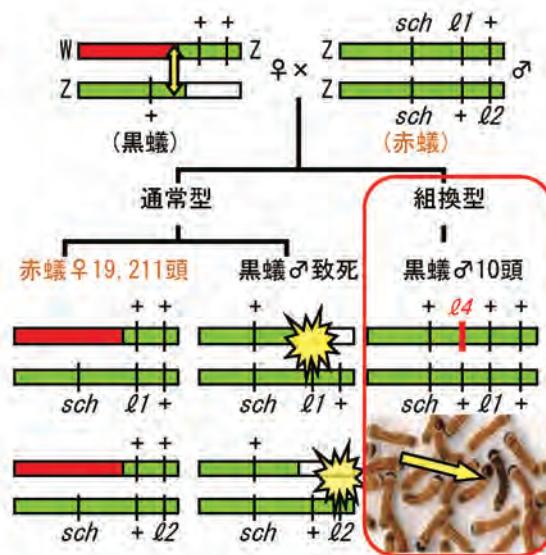


図 8 組換え型黒蟻の検出方法と遺伝子型

しかし、W と Z が繋がった染色体と欠失がある Z 染色体との間 (↓) で特殊な組換え (入換) が低率ながら起こると、組換え型

黒蟻（赤枠内）として検出できると推定されます。なお、通常蚕の雌では組換えが起こらないことが知られているので、このことは特殊なケースと考えられ、近年、遺伝学的な面から注目されています。

いずれにしても、新たな致死遺伝子を容易に見出すため、複雑な染色体構成・遺伝子型の交配を行ったところ、孵化した約2万頭の中から組換え型黒蟻雄10頭を簡単に見出すことができました。この中で、最も平衡致死の構築に適した致死遺伝子をℓ4としました。このℓ4を用いて、図7の想定通り、特殊な平衡致死の構築を行いました。

この雌に、図8上段の雄を交配したところ、次代に孵化した99.9%は赤蟻でした。このことから、計画通りに、図7で想定した雌だけを得ることができる特殊な平衡致死系統を作出できたことが明らかになりました。

なお、赤蟻遺伝子は雌のみが孵化していることを確かめるための目印として用いたもので、赤蟻遺伝子を持たない平衡致死系統雄を交配しても、雌だけが孵化することには変わりはありません（図3）。

実用蚕品種の育成

緑繭系統では雌繭が雄繭に比べてフラボノイドの含有量が多いことが知られています。この点に着目して、すでに開発した雌だけを得ることが可能な系統を用いて、雌だけの緑繭品種の開発を試みました。

まず、中国種平衡致死白繭系統（表1のCBL：プラチナボーイの親系統）と中国種緑繭系統（CG）とを交配すると、平衡致死



図9 緑繭（レモン色）系統の繭

は損なわれますので、その後、図2のように平衡致死の再構築を行い、中国種緑繭平衡致死系統（CBLG）を育成しました。

表1 表1 緑繭の導入に用いた原種と交雑種の成績

記号	全繭重 (g)	繭層重 (cg)	繭層歩合 (%)	繭色	性別	種別
CBL	1.75	40.0	23.2	白	♀,♂	中国
CG	1.83	34.8	19.0	緑		
CBLG	1.88	43.3	23.2	緑*		
BLn	1.87	34.6	18.9	白	♀,♂	日本
NG	1.66	37.8	22.7	緑		
NBLG	1.83	38.9	21.4	緑*		
QnG	2.13	44.6	20.9	緑*	♀	交雑

* : まだ多少白繭が出現しています。

その結果、CBLGは元のCBLとほぼ同等な成績にまで到達することができました。

次に、図7の特殊な新しい平衡致死系統（BLn）と日本種緑繭系統（NG）とを交配して緑繭形質を導入しました。続いて、平衡致死の再構築と緑繭の選抜を行い、日本種緑繭平衡致死系統（NBLG）を育成しました。

NBLG雌にCBLG雄を交配して得られた雌だけの品種がQnGです。まだ、多少白繭が出現しますが、この雌だけが得られる緑繭品種の活用が期待されます。

また、雄だけが得られるプラチナボーイを経糸に、雌だけが得られる緑繭品種を緯糸にしたコラボ製品はいかがでしょうか。

まだまだ夢は広がっていきます。

イベント情報

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
純国産絹製品の紹介	（那覇伝統織物事業協同組合） 出展者は那覇伝統織物事業協同組合の傘下の工房。 群馬県オリジナル蚕品種のぐんま200を碓氷製糸で繰糸し、撚糸は甘撚りとし、染料は沖縄の天然染料を用い、織は伝統的な首里織の着尺、帯を展示。	<会期> 平成27年7月13日（月）～30日（木） <開催時間> 10：00～18：00	<主催> ジャパンシルクセンター <会場> ジャパンシルクセンター 〒100-0006 東京都千代田区有楽町
	（森秀織物（株）） 出展者は、桐生産地の老舗の機屋。 群馬県オリジナル蚕品種のぐんま200を碓氷製糸で繰糸し、自社で染色、撚糸、染織した伝統ある手法を用いた御召の展示	<会期> 平成27年8月3日（月）～28日（金） <開催時間> 10：00～18：00	1-9-4蚕糸会館 1階 TEL：03-3215-1212 FAX：03-3214-1700
	（（株）伊と幸） 出展者は、京都室町の独自の紋柄をもつ老舗の白生地問屋。オリジナルブランド「松岡姫」の白生地の幅広い展示。	<会期> 平成27年9月14日（月）～10月9日（金） <開催時間> 10：00～18：00	
第28回絹まつり	毎年、夏、冬にシルク製品のモニター展示販売する夏のイベント。 「デイリーシルク（絹を日常に!）」をコンセプトとし、ブラウス、肌着、スカーフ、ストール、靴下、石鹸などの展示販売。	<日時> 平成27年7月6日（月）～9日（木）10：00～18：30、最終日は17：00まで	
第70回特別展 「いせさき銘仙の美力」	伊勢崎銘仙は大正から昭和中期にかけて全国的に大流行した伝統的な絹織物です。伊勢崎銘仙の豊富な色と柄を活かしたピンワークなどのモダンなコーディネートを展示し、その美力を紹介する。	<開催日> 平成27年5月30日（土）～7月13日（月） 休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌日）	<主催> 群馬県立日本絹の里 <お問合せ> 日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 TEL：027-360-6300

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
夏休み子ども特別展 （第71回特別展） 「カイコのふしぎ」	カイコの卵、幼虫、吐糸、蛹、成虫、休眠性、遺伝、餌となる桑、飼育法などを取り上げ、カイコについて総合的に紹介。生きたカイコに触れる展示コーナーを設置。	＜開催日＞ 平成27年7月18日（土）～9月3日（木） 休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌日）	＜主催＞ 群馬県立日本絹の里 ＜お問合せ＞ 日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 TEL：027-360-6300
TOKITA COLLECTION 展	アンティークストッキング収集研究家鵜田章（ときた・あきら）氏が30年間かけて収集した TOKITA COLLECTION の中からテーマ別展示とその歴史解説の講演を毎回行い、平成26年12月より約1年をかけてリレー展示。 第4回 「美しい絹の下着とストッキング～お洒落なコーディネート～」 第5回 「ストッキングのパッケージデザイン ～百貨店の登場による売り方の変化～」	＜開催日＞ 第4回： 平成27年6月2日（火）～7月31日（金） 作品解説：6月13日（土）・7月11日（土） 午後2時より 第5回： 平成27年8月2日（日）～9月30日（水） 作品解説：8月8日（土）・9月12日（土） 午後2時より	＜主催＞ シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地 シルクセンター2階 TEL：045-641-0841 ＜お問合せ＞ 同上 ＜休館日＞ 月曜日（祝日の場合は翌日）、午前9時～午後4時30分まで（入館は4時まで）
岡谷蚕糸博物館開館一周年記念企画展 「市田ひろみ世界の旅展」 ～シルク工芸美で巡る、アジア・ヨーロッパ	本企画展では市田ひろみ氏のコレクションから貴重な手仕事のシルクの民族衣装を展示し、アジアからヨーロッパにかけて人々が大切にしてきたシルクの魅力について考察します。	＜開催日＞ 平成27年7月30日（木）～11月1日（日） ・市田ひろみトークショー 9月5日10:00～12:00 ・ギャラリートーク 9月6日10:00～11:00	＜場所＞ 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8 TEL:0266-23-3489 休館日：毎週水曜日・祝日の翌日（8月12日は開館）

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
シルクカントリー ぐんま 絹の国サミット	「富岡製糸場と絹産業遺産群」と関連の深い県外地域関係者を集め、日本全体の絹の歴史や価値等を通じて、本県世界遺産の価値の理解促進と広報を図る。	平成 27 年 10 月 3 日 （土）13：00～16：30 ・基調講演 ・事例紹介 （兵庫県養父市、山形県鶴岡市、長野県長野市、松本市）	<主催> 群馬県、上毛新聞社ほか <場所> 富岡製糸場東繭倉庫 〒370-2316 群馬県富岡市富岡 1-1 TEL：0274-64-0005 <お問合せ> 上毛新聞社 〒371-8666 前橋市古市町 1-50-21 TEL：027-254-9911
第 39 回特別展 「染める」—小栗コ レクションを中心と して—	那美屋織物・小栗織物研究所の小栗弘平氏が昭和 50～60 年代にかけて主に長野県で収集した藍染の唐草模様の布を中心に展示するとともに「型染め」や「ろうけつ染め」などに関する資料、道具類、着物などを併せて展示し、多様な染めの世界を紹介する。	平成 27 年 7 月 11 日 （土）～8 月 18 日 （火）9：00～17：00 水曜日休館（祝日の場合は開館） ・「型染めの実演」 7 月 19 日（日）、20 日（月）、8 月 8 日（土）、9 日（日）13：00～15：00	<主催> 駒ヶ根シルクミュージアム <場所> 〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地 TEL：0265-82-8381
「屏風と小袖～涼を呼ぶ 千總コレクション～」	千總に美術コレクションから、「夏の涼」をテーマに屏風と小袖の紹介。海の景色の屏風、流水や雪景色の目に涼やかな小袖に日本人の繊細な美意識を提供。	平成 27 年 7 月 3 日 （金）～8 月 25 日 （火） 9：30～18：00 入場無料、水曜日休館	<場所> 千總本社ビル 2 階 〒604-8166 京都市中京区御倉町 80 TEL：075-211-2531

お知らせ

件名	内容	問合せ先
「群馬県立日本絹の里」の指定管理者を公募	群馬県では、管理運営業務を効果的かつ効率的に受託できる団体等を公募いたします。 ・所在地 高崎市金古町 888 番地－1 ・指定管理期間 平成 28 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日までの 5 年間 ・募集スケジュール 募集要項・申請書の配布： 平成 27 年 7 月 1 日～7 月 17 日 申請受付期間：平成 27 年 8 月 31 日まで ※指定管理業務の範囲や申請方法など詳細はお問い合わせください。	【問い合わせ先】 〒371-8570 前橋市大手町一丁目 1 番地 1 号 群馬県農政部蚕糸園芸課蚕糸係 電話 027-226-3092 FAX 027-243-7202 E-mail：sanshien@pref.gunma.lg.jp

年月日	活 動 内 容 等
27.5.11 ~ 27.5.15	農林水産省「消費者の部屋」特別展示 「和の空間」でおもてなし（一粒繰り、和装展示、パネル展示等）
27.5.21	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会WG会議（東京都有楽町 蚕糸会館）
27.5.25	純国産絹マーク審査委員会（東京都有楽町 蚕糸会館）



農林水産省農林水産省「消費者の部屋」特別展示

平成 27 年度第 1 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 27 年度第 1 次審査会を平成 27 年 5 月 25 日（月）に開催しました。今回は、6 者から申請があり、新規申請者が 1 者 1 品目、使用許諾されている者の 5 者が履歴の追加 1 品目、数量の追加 19 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、6 者 21 品目に対し、6 月 1 日（月）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) 森秀織物（株） 代表者名：長谷川博紀 (担当者：長谷川博紀) 〒376-0034 群馬県桐生市東 4-2-24 TEL：0277-45-3111 表示者登録番号 209	先染反物（御召）	30反	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 燃 糸 自社 染 織 自社
(数量の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名：小林幸夫 (担当者：土井芳文) 〒370-0006 群馬県高崎市問屋町 3 丁目 5-3 TEL：027-361-2377 表示者登録番号 021	裏地（胴裏絹）	230枚	制作企画 絹小沢（株） 蚕品種 世紀二一・ぐんま 200 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (有) 長島織物 加 工 キヌテック（株）
(数量の追加) (株) 伊と幸 代表者名：伊藤公一 (担当者：北川幸) 〒604-8176 京都市中京区龍池町 448-2 TEL：075-256-2818 表示者登録番号 035	白生地 (色無地用紋意匠)	60反	蚕品種 松岡姫 繭生産 JA みちのく安達管内養蚕農家 製 糸 松岡（株） 製 織 羽賀織物
	白生地 (色無地用紋意匠)	150反	蚕品種 松岡姫 繭生産 JA みちのく安達管内養蚕農家 製 糸 松岡（株） 製 織 白数織物（有）
	白生地 (帯地用古代縮緬)	315反	蚕品種 松岡姫 繭生産 JA みちのく安達管内養蚕農家 製 糸 松岡（株） 製 織 奥田重之織物
	白生地 (小紋用紋意匠)	20反	制作企画 永見（株） 蚕品種 松岡姫 繭生産 JA みちのく安達管内養蚕農家 製 糸 松岡（株） 製 織 羽賀織物

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)	
(数量の追加) (株) 高島屋 代表者名：木本茂 (担当者：武田陽子) 〒103-8265 東京都中央区日本橋2-4-1 TEL：03-3211-4111 表示者登録番号 030	後染反物(振袖)	29枚	繭生産 製系 製織 染色加工	JA 那須南管内養蚕農家 松岡(株) 美雲織物(株) (株) 千總
	後染反物(振袖)	63枚	繭生産 製系 製織 染色加工	JA 那須南管内養蚕農家 松岡(株) (株) 松浦絹織 (株) 千總
	後染反物(振袖)	169枚	繭生産 製系 製織 染色加工	JA 那須南管内養蚕農家 松岡(株) (株) 竹林 (株) 千總
	後染反物 (七五三きもの)	112枚	繭生産 製系 製織 染色加工	JA 那須南管内養蚕農家 松岡(株) 美雲織物(株) (株) 千總
(数量の追加) (株) 千總 代表者名：仲田保司 (担当者：俵武司) 〒604-8166 京都市中京区御倉町80 TEL：075-211-2531 表示者登録番号 001	後染反物 (色無地)	230枚	繭生産 製系 製織 染色加工	福島県・岩手県内養蚕農家 松岡(株) 足忠(有) 自社
	後染反物 (訪問着・付下)	90枚	繭生産 製系 製織 染色加工	福島県内養蚕農家 松岡(株) 田勇機業(株) 自社
	後染反物(振袖)	80枚	繭生産 製系 製織 染色加工	福島県内養蚕農家 松岡(株) (株) 松浦絹織 自社
	後染反物 (七五三きもの)	170枚	繭生産 製系 製織 染色加工	福島県・山形県内養蚕農家 松岡(株) 美雲織物(株) 自社
	後染反物 (訪問着・付下・小紋)	45枚	繭生産 製系 製織 染色加工	山形県・福島県内養蚕農家 松岡(株) 美雲織物(株) 自社
	後染反物(振袖)	130枚	繭生産 製系 製織 染色加工	福島県内養蚕農家 松岡(株) (株) 竹林 自社
	後染反物 (訪問着・付下)	90枚	繭生産 製系 製織 染色加工	福島県・山形県内養蚕農家 松岡(株) 田勇機業(株) 自社
	後染反物 (訪問着・留袖)	120枚	繭生産 製系 製織 染色加工	福島県・山形県内養蚕農家 松岡(株) 河藤(株) 自社
	後染反物(振袖)	80枚	繭生産 製系 製織 染色加工	福島県内養蚕農家 松岡(株) (株) 松浦絹織 自社

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(履歴・数量の追加) (株) 京ろまん 代表者名：郡史朗 (担当者：郡史朗) 〒630-8246 奈良県奈良市 油阪地方町 6-4 TEL：0742-27-8400 表示者登録番号 141	(履歴の追加) 後染反物 (変一越・小紋)	20反	制作企画 田中種 (株) 繭生産 JA につたみどり安達管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん (株) 染 織 高田勝 (株)
	(数量の追加) 後染反物 (紋意匠・小紋)	12反	制作企画 田中種 (株) 繭生産 JA につたみどり安達管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 芝井 (株) 染 織 高田勝 (株)

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧

平成27年5月25日 (H27-第1次) 現在

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物 (振袖、訪問着、付下、色無地、留袖、黒留袖、喪服)、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物 (色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物 (色無地)、胴裏 (灰汁浸け加工)
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物 (色無地、黒紋付)
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物 (色無地、黒紋付)
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物 (色無地、黒紋付)
010	(有) 樹 (いづき)	秋田県横手市	後染反物 (色無地、黒紋付)
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物 (作家作品)、後染帯地、先染反物 (大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地 (織九寸帯、織角帯、作家作品)、白生地、和装小物 (帯締、羽織紐)、八掛、胴裏
012	河瀬満織物 (株)	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物 (色無地、黒紋付)
016	(株) 絹回廊	東京都中央区	後染反物 (色無地)
017	(有) 琴路屋	岩手県釜石市	後染反物 (色無地、黒紋付)
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物 (色無地、黒紋付)
021	日本蚕糸絹業開発協同組合	群馬県高崎市	裏地 (胴裏 (ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま 200、灰汁浸加工、トルマリン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物 (作家作品、紋付地)、白生地 (世紀二一、上州絹星・ぐんま 200、新小石丸)、後染帯地 ((冬物・夏物): うるし糸が5%を超えるもの)、寝衣 (うぶ着、おくるみ)、和装小物 (袱紗)
022	宮階織物 (株)	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物 (色無地、訪問着)、先染帯地 (袋帯 (草木染、唐織))
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物 (有)	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地 (袋帯、名古屋帯)、先染反物 (御召類)、後染反物 (色無地)、先染帯地 (袋帯: 金銀糸が5%を超えるもの)
027	(有) 織道楽塩野屋	京都市上京区	洋装品 (マフラー、シャツ、ニット (ウォーマー、腹巻、手袋、靴下))

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物（江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地）、後染帯地
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物（色無地、黒紋付）
030	(株) 高島屋	東京都中央区	後染反物（振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖）、 白生地（長襦袢地、胴裏）、ニット（靴下）
031	(株) さが美	横浜市港南区	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物（色無地、黒紋付）
033	(有)特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物（色無地、黒紋付）
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物（色無地、黒紋付、小紋）
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物（色無地）、白生地（表地、胴裏、帯地）、婦人用 ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物（色無地、黒紋付）
038	(株) 梶屋高尾	京都市北区	先染帯地（袋帯）
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物（色無地、黒紋付）
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）、白生地（結城紬）
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物（紋紬、緋）、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物（色無地（変三越、駒紬））
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物（色無地、黒紋付）
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
060	田中種（株）	大阪市中央区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺）、後染帯地（九寸名古屋帯）、ニット（靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢）
061	（株）京扇	東京都中央区	後染反物（色無地）、胴裏（パールトーン加工）
062	（株）なごみや	横浜市都筑区	後染反物（色無地、黒紋付）
063	丸池藤井（株）	京都市中京区	後染反物（色無地）、八掛
064	久保商事（株）	京都市中京区	和装小物（帯揚げ、半衿）
065	加賀グンゼ（株）	石川県小松市	胴裏
066	千切屋（株）	京都市中京区	後染反物（訪問着、付下）、後染帯地
067	荒川（株）	京都市下京区	和装小物（帯締、帯揚げ）
068	第一衣料（株）	東京都中央区	後染反物（色無地）
069	（株）紅輪	川崎市宮前区	後染反物（色無地）
070	装いの道（株）	東京都千代田区	白生地（帯地、表地）、胴裏（トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸）
071	（株）高橋屋	岩手県一関市	胴裏（灰汁浸加工）
072	おお又（株）	大阪市旭区	胴裏（灰汁浸加工）、ニット（靴下）
073	（株）天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏（ぐんま 200（灰汁浸加工））、白生地（表地）
074	（株）きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏（パールトーン加工）
075	（株）とみひろ	山形県山形市	胴裏（酵素精練）
076	（株）細安	福井県福井市	胴裏（酵素精練）
077	京和きもの（株）	神奈川県厚木市	胴裏（酵素精練）
078	（株）まるため	長野県長野市	胴裏（トルマリン加工、パーリー加工）
079	（株）小川屋	群馬県前橋市	胴裏（トルマリン加工、灰汁浸加工）
080	（株）エムラ	山口県防府市	胴裏（酵素精練）
081	（株）荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏（酵素精練）
082	（株）牛島屋	富山県富山市	胴裏（酵素精練）、後染反物（小紋）
083	（株）谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏（酵素精練）
084	（株）登美屋	岩手県北上市	胴裏（パールトーン加工）
085	（株）川平屋	愛知県豊田市	胴裏（パールトーン加工）、後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
086	丸専第一衣料（株） （丸専きもの）	新潟県長岡市	胴裏（パールトーン加工）
087	（株）大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地（胴裏、比翼地（振袖用））、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール
089	（株）あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
090	藤井紋 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装 品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
096	(株) 北尾織物匠	京都市上京区	先染帯地 (袋帯、名古屋帯)
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が 5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が 5%を超えるもの)
100	京商 (株)	鳥取県米子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(株) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が 5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が 5%を超えるもの)、紹九寸帯 (金銀糸が 5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚げ、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー (手織り)
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市中京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、パジャマ、袱紗
150	(有) さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物 (色無地、付下)
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が 5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
155	東朋 (株)	京都府与謝野町	ストール
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品（ふとん、ふとんカバー）、洋装品（スーツ地、コート地、スカート地、シャツ）、服飾品（スカーフ、ストール）
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地（胴裏）、和装小物（袱紗）
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物（小紋）
162	福続織物（株）	福岡市西区	先染帯地（本袋男帯、八寸名古屋帯）
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地（表地）
164	(株) 東京藤屋 （きものレディ着付け学院）	東京都品川区	白生地（表地）
165	(株) 染織こうげい	東京都中央区	白生地（表地）
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品（布団、膝かけ）
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
169	(株) コノエ （そめの近江）	東京都豊島区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））、ニット（靴下）
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地（変り縮緬）、先染反物（大島紬）
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物（置賜紬）、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物（大島紬）、先染帯地（大島紬）
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地（八寸名古屋帯）
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット（腹巻、靴下）
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物（小紋（変一越））
182	京呉服好一（株）	京都市北区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏（パールトーン加工）
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物（小紋（変一越））
185	マテリアル ロープ 麿	東京都練馬区	後染反物（小紋（変一越））
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物（小紋（変一越）、訪問着）、先染反物（絁着尺）
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地（表地）、帯締、羽織紐、帯締（金銀糸が5%を超えるもの）
188	青山きもの（株）	東京都港区	白生地（表地）

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
189	ニット青木（株）	東京都品川区	ニット（スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー）
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物（綾御召（男物、女物））、裏地（紬八掛）
191	（株）リンクピース	福岡市博多区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
192	（有）新宮（きもの宮下）	宮崎県宮崎市	後染反物（小紋（変一越））
193	アトリエ ITO 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家 杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	（株）夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地（変り縮緬）、先染反物（大島紬）
197	（株）嗟が野	埼玉県川越市	白生地（変り縮緬）、先染反物（大島紬）
198	（株）カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	（株）新田	山形県米沢市	後染反物（ぼかし着尺）
200	（株）ソーホー	京都市下京区	白生地（紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬）、後染反物（本加賀訪問着）
201	（株）すずのき	東京都品川区	後染反物（訪問着・色無地）
202	メーカーズシャツ鎌倉（株）	神奈川県鎌倉市	ニット（肌着）
203	（株）丸本岩崎	北海道函館市	裏地（胴裏絹）
204	（株）緒方商店 （きもの心おがた）	愛媛県八幡浜市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
205	富士新幸（株）	山梨県都留市	真綿布団
206	（有）浅井ローケツ	京都市中央区	後染反物（色無地・藍染）
207	（有）呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地（変一越）
208	（株）ADESSO （きもの工房一休）	神戸市中央区	白生地（変一越）
209	森秀織物（株）	群馬県桐生市	先染反物（御召）

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひこころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渚町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里木織の家「椽（つるばみ）」	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 （一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1 - 6 - 8 清水学園ビル 6F ～ 8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	神奈川県横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2（大杉公園隣り）	042-761-7118
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館（織の文化館）	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 1	0257-82-4888

名 称	〒	住 所	電 話
白山工房（織りの資料館）	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	991-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館（絹の資料館）	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業（株）内	0268-22-1230
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号（上田城跡公園内）	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ（株）内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館（松本歴史の里）	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 4	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静海市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都府京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ（株）周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業（株）内	0772-72-0307
上垣守国養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）	651-0082	兵庫県神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製糸記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人繊維物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.taafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www5.somard.co.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(独) 農業生物資源研究所 <http://www.nias.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html>
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科 <http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学 <http://www.kit.ac.jp>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府繊維・機械金属振興センター <http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.or.jp>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

【学 会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jsst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム
織成館（京都・上京）
高崎市染料植物園
群馬県立歴史博物館
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）
はたや記念館ゆめおーれ勝山

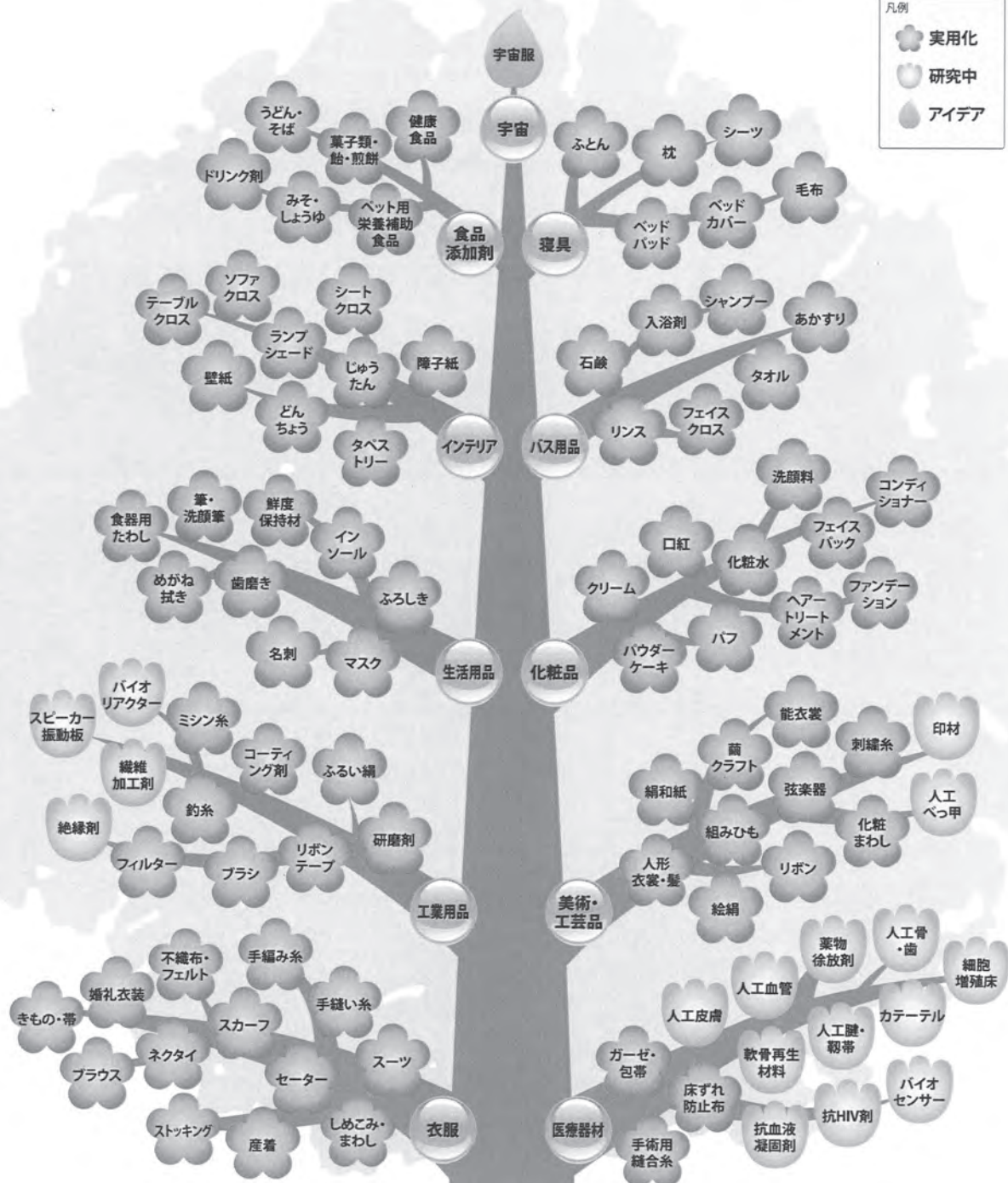
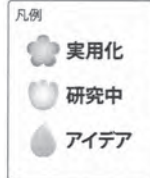
<http://www.cek.ne.jp/~shiruku>
<http://orinasukan.skr.jp>
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097>
<http://grekisi.pref.gunma.jp>
<http://silkfact.jp>
<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場
群馬県 企画部 世界遺産課
ぐんま絹遺産
上毛新聞社関連記事

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>
http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

絹利用の系統樹



絹利用検討会 (2012年)

原図:小松 計一

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	50
(2) 養蚕農家数の推移	51
(3) 繭生産数量の推移	52
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	53
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	54
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	55
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	56
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	57
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	58
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算）	59
(11) 製糸工場の原料繭需給	60
(12) 製糸工場の操業状況	61
(13) 生糸在庫数量の内訳	62
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	63
(15) 生糸の原産国別輸入数量	64
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	65
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	66
(18) 絹織物生産数量	67
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	68
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	69

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	70
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	71
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数	72
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	73
(5) 中国のシルク類（生糸・絹糸・絹織物）の輸出状況	74
(6) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	75
(7) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率	76
(8) 中国企業別従業員年間平均賃金及び対前年増減率	77
(9) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	78
(10) 中国省別従業員年平均賃金	79
(11) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	80
(12) ブラジルの生糸・絹糸輸出数量の推移	81

一 資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次（暦年） Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
(平成)								
1997 (9)	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 (10)	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 (11)	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	7	60	33.6	11,472
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	11,612
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	10,418
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	9,974
2013 (25)	486	168	346	0.4	7	35	32.0	10,054
2014 (26)	393	149	379	0.4	7	35		9,368
前年対比 (%) 2014/13	80.9	88.7	109.7	100.0	100.0	100.0	-	93.2

資料 ・ 平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

・ 平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び（一財）大日本蚕糸会調査である。

・ 平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会調査である。

・ 平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は（一社）日本絹人織織物工業会調査である。

平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

・ 平成23年以降の養蚕業は（一財）大日本蚕糸会調査である。

（注）製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・ Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・ National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・ Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 ・ The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・ Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
対前年比 2014/13 (%)		80.9	85.1	88.5	82.2

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移
Cocoon Production

項 目 Item 年 次 Year	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002	880	330	231	320	373	166	134	167
2003	775	313	210	253	374	167	140	144
2004	675	256	176	243	369	158	128	157
2005	626	243	165	218	396	171	156	162
2006	505	209	122	173	375	172	143	157
2007	433	175	110	148	371	166	152	150
2008	382	147	96	139	374	158	157	162
2009	327	124	85	118	357	152	131	156
2010	265	107	60	98	351	165	121	154
2011	220	95	49	76	351	169	136	143
2012	202	79	50	73	354	155	156	159
2013	168	61	41	67	346	145	158	168
2014	149	55	36	58	379	153	157	176
対前年比 2014/13 (%)	88.7	90.2	87.8	86.6	109.6	105.8	99.6	104.8
2014年 構成比 (%)	100.0	36.9	24.2	38.9				

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(4)平成26年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures in 2014

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比
青森県	0	—	—	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	14	15	107.1	14	10	71.4	17	15	88.2	19	18	94.7
宮城県	17	11	64.7	10	11	110.0	13	14	107.7	21	17	81.0
山形県	7	7	100.0	6	5	83.3	6	6	100.0	8	8	100.0
福島県	53	40	75.5	23	41	178.3	57	47	82.5	58	48	82.8
茨城県	18	18	100.0	13	11	84.6	15	13	86.7	21	18	85.7
栃木県	22	23	104.5	17	18	105.9	23	23	100.0	26	23	88.5
群馬県	157	130	82.8	107	84	78.5	160	120	75.0	181	140	77.3
埼玉県	36	30	83.3	28	20	71.4	29	27	93.1	41	31	75.6
千葉県	7	6	85.7	5	5	100.0	7	5	71.4	7	6	85.7
東京都	4	4	100.0	0	—	—	4	3	75.0	5	4	80.0
新潟県	10	8	80.0	0	—	—	0	—	—	10	8	80.0
福井県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
山梨県	9	11	122.2	7	5	71.4	13	11	84.6	15	12	80.0
長野県	21	14	66.7	16	10	62.5	18	13	72.2	22	17	77.3
岐阜県	13	11	84.6	0	—	—	12	9	75.0	13	11	84.6
愛知県	2	2	100.0	0	—	—	1	—	—	2	2	100.0
京都府	4	3	75.0	0	—	—	3	2	66.7	4	3	75.0
兵庫県	1	1	100.0	0	—	—	1	1	100.0	1	1	100.0
愛媛県	12	11	91.7	7	5	71.4	10	9	90.0	15	11	73.3
高知県	3	3	100.0	0	—	—	2	2	100.0	3	3	100.0
熊本県	6	5	83.3	0	—	—	3	2	66.7	7	5	71.4
宮崎県	2	2	100.0	2	—	—	0	1	—	2	2	100.0
鹿児島県	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0
全国計	422	359	85.1	260	230	88.5	399	328	82.2	486	393	80.9

資料:(一財)大日本蚕糸会調査

Source:The Dainippon Silk Foundation

(5) 平成26年度蚕期別、都府県別繭生産数量

Cocoon production by prefectures in 2014

(単位：kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年間		
	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比
青森県	-	-	-	119.3	113.7	95.3%	151.9	93.7	61.7%	271.2	207.4	76.5%
岩手県	1,928.5	1,619.2	84.0%	2,348.0	1,450.7	61.8%	2,597.2	1,989.4	76.6%	6,873.7	5,059.3	73.6%
宮城県	2,369.7	1,791.2	75.6%	2,242.6	2,267.0	101.1%	2,699.2	2,363.9	87.6%	7,311.5	6,422.1	87.8%
山形県	1,311.0	1,222.5	93.2%	821.9	597.6	72.7%	1,482.0	1,570.4	106.0%	3,614.9	3,390.5	93.8%
福島県	10,475.9	8,335.8	79.6%	9,996.8	8,246.5	82.5%	13,435.7	11,998.8	89.3%	33,908.4	28,581.1	84.3%
茨城県	2,925.2	2,335.3	79.8%	1,499.5	1,314.7	87.7%	2,652.3	2,292.5	86.4%	7,077.0	5,942.5	84.0%
栃木県	5,923.3	8,047.0	135.9%	4,015.9	4,528.4	112.8%	9,809.9	10,309.9	105.1%	19,749.1	22,885.3	115.9%
群馬県	21,487.6	19,166.0	89.2%	13,463.2	11,382.4	84.5%	22,606.5	16,456.4	72.8%	57,557.3	47,004.8	81.7%
埼玉県	5,215.7	3,796.1	72.8%	2,854.0	2,191.5	76.8%	4,657.7	3,708.5	79.6%	12,727.4	9,696.1	76.2%
千葉県	917.5	1,001.6	109.2%	490.4	568.2	115.9%	1,028.4	1,026.2	99.8%	2,436.3	2,596.0	106.6%
東京都	242.3	210.4	86.8%	-	-	-	165.1	133.0	80.6%	407.4	343.4	84.3%
山梨県	2,157.8	2,372.2	109.9%	420.6	813.6	193.4%	1,495.4	1,882.0	125.9%	4,073.8	5,067.8	124.4%
長野県	1,951.5	1,813.2	92.9%	1,413.7	1,319.9	93.4%	1,864.9	1,771.7	95.0%	5,230.1	4,904.8	93.8%
新潟県	131.9	124.6	94.5%	-	-	-	-	-	-	131.9	124.6	94.5%
福井県	27.6	41.7	151.1%	14.3	33.3	232.9%	37.6	34.5	91.8%	79.4	109.4	137.8%
岐阜県	803.1	673.5	83.9%	-	-	-	439.0	568.3	129.5%	1,242.1	1,241.8	100.0%
愛知県	80.5	58.4	72.5%	0.0	-	-	17.7	0.0	0.0%	98.2	58.4	59.5%
兵庫県	40.0	55.0	137.5%	0.0	-	-	35.0	65.0	185.7%	75.0	120.0	160.0%
京都府	102.9	82.7	80.4%	-	-	-	40.8	41.5	101.7%	143.7	124.3	86.5%
愛媛県	1,753.0	1,596.1	91.0%	1,005.8	952.2	94.7%	1,186.9	1,141.8	96.2%	3,945.7	3,690.1	93.5%
高知県	162.0	177.7	109.7%	-	-	-	16.0	82.4	515.0%	178.0	260.1	146.1%
熊本県	463.3	459.2	99.1%	-	-	-	340.1	73.6	21.6%	803.4	532.8	66.3%
宮崎県	88.1	113.7	129.1%	-	-	-	95.6	34.4	36.0%	183.7	148.1	80.6%
鹿児島県	46.6	82.0	176.0%	43.3	77.0	177.8%	57.5	71.0	123.5%	147.4	230.0	156.0%
全国計	60,604.8	55,175.0	91.0%	40,749.3	35,856.6	88.0%	66,912.4	57,708.9	86.2%	168,266.4	148,740.5	88.4%

資料：(一財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移 (2010~2014年)

Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2011年 (平成23年)		2012年 (平成24年)		2013年 (平成25年)		2014年 (平成26年)	
		箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦秋1号 × 鐘和1号		2,729	24.6	2,806	27.6	2,450	21.9	3,278	33.4
錦秋 × 鐘和月		2,100	19.0	1,818	17.8	3,221	28.8	1,754	15.7
春嶺 × 鐘月0		1,002	9.0	838	8.2	1,871	16.7	1,116	10.0
春嶺1号 × 鐘月1号		1,388	12.5	1,443	14.2	1,125	10.1	1,104	9.9
松嶺 × 岡姫		1,419	12.8	1,175	11.5	380	3.4	872	7.8
かいりょう × あけぼの丸		300	2.7	340	3.3	547	4.9	350	3.1
小石 × 丸イ		435	3.9	416	4.1	166	1.5	140	1.3
新小石 × 丸イ		72	0.6	67	0.7	76	0.7	134	1.2
ぶらんち × 細金		396	3.6	324	3.2	317	2.8	129	1.2
ぐんま × 黄1		66	0.6	64	0.6	76	0.7	128	1.1
白繭 × 細金		76	0.7	70	0.7	47	0.4	126	1.1
いんろ × どり		77	0.7	93	0.9	64	0.6	103	0.9
朝改良 × 小石		134	1.2	55	0.5	85	0.8	92	0.8
改蚕技 × 研11		50	0.5	50	0.5	111	1.0	76	0.7
山東3眠 × C5・507		78	0.7	33	0.3	67	0.6	58	0.5
白世紀 × 二黄		52	0.5	36	0.4	48	0.4	52	0.5
白世紀 × 黄竜						53	0.5	42	0.4
大秋光 × 竜						7	0.1	33	0.3
黄玉小 × 21						92	0.8	31	0.3
緑極細 × 1						71	0.6	23	0.2
極細 × 1						63	0.6	23	0.2
Nk × Cu1		132	1.2	95	0.9			22	0.2
太白平 × 長2		5	0.0					20	0.2
青支21 × 支21		15	0.1	33	0.3	42	0.4	20	0.2
N5・N6 × TY40		22	0.2	15	0.1	17	0.2	20	0.2
奄極美 × 3						41	0.4	18	0.2
玉繭 × 3						21	0.2	16	0.1
緑繭 × 1								10	0.1
鷹108号 × 青C5・505						49	0.4	8	0.1
支山東3眠 × 中515		13	0.1	28	0.3			8	0.1
青又 × 中515		2	0.0			6	0.1	5	0.0
芙蓉 × つくばね		8	0.1	7	0.1	4	0.0	4	0.0
は朝改良 × 多黄		6	0.1	4	0.0			4	0.0
琉球 × C又								4	0.0
山中515号 × 紹中515								4	0.0
諸鬼 × 絹星								3	0.0
上州 × 黄銀								2	0.0
鐘秋花 × 計									
合 Total		11,080	100.0	10,185	100.0	11,174	100.0	9,808	100.0

資料：(一財)大日本蚕糸会調査。

Source : The Dainippon Silk Foundation.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年 月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,928	8,261
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,514	568	12,826	7,586
2007	1,747	12,601	—	15,624	8,080	19,439	404	11,409	7,186
2008	1,588	15,212	270	20,026	4,584	22,636	466	11,696	7,131
2009	1,152	12,075	133	13,623	4,055	16,657	387	9,028	6,271
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125
2013 — 1	38	958	0	1,014	2,162	1,744	11	582	356
2	32	906	0	818	2,282	1,138	13	505	409
3	36	1,148	122	912	2,432	1,337	44	456	525
4	36	0	2	565	1,901	1,552	16	601	485
5	35	1,314	0	969	2,281	1,628	23	679	483
6	36	926	0	977	2,266	1,175	21	592	479
7	28	611	0	702	2,203	1,326	66	671	461
8	19	758	168	715	2,097	1,288	61	501	416
9	26	566	0	743	1,946	918	68	447	403
10	40	855	0	934	1,907	1,354	45	567	465
11	42	491	0	739	1,701	1,351	19	570	500
12	41	800	0	830	1,712	1,033	40	491	450
2014 — 1	30	776	0	679	1,839	1,579	13	684	324
2	39	591	0	582	1,887	677	21	296	485
3	35	1,055	10	976	1,991	1,338	15	487	511
4	42	270	0	547	1,756	1,392	30	474	521
5	41	927	0	725	1,999	1,332	26	570	486
6	45	869	0	946	1,967	1,355	30	643	380
7	39	599	0	728	1,877	1,311	45	553	429
8	24	548	0	663	1,786	1,203	25	475	362
9	32	591	0	681	1,728	1,411	41	422	359
10	43	748	0	794	1,725	1,121	22	510	447
11	34	667	0	784	1,642	1,008	36	446	392
12	43	600	3	629	1,653	1,094	27	534	428
2015 — 1	35	722	0	663	1,747	1,422	14	449	380
2	44	614	0	647	1,758	1,045	7	539	342
3	37	802	0	686	1,911	694	17	271	469
4	38	0	0	531	1,418	1,165	27	461	428
5	29				1,550				

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査 (～2010.3)、中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会 (2010.4～2012.3)、中央蚕糸協会 (2012.12～)。 (B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興 機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。 (F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量 (D) = { 前月在庫数量 + (A) + (B) } - { (C) + (E) }。
2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。
3. (D) と (E) は2012年11月までと同年 1 2月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010.3)、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11)、Central Raw Silk Association (2012.12～)。

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on data of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries (D) = { Stock at end of the previous month + (A) + (B) } - { (C) + (E) }。
2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位 : 60kg俵)

(Unit : Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	生 糸					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
暦 年 Calendar Year	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
2011	731	1	188	249	89	204
2012	506	—	149	202	73	82
2013	409	—	109	105	57	138
2014	447	—	114	116	62	155
2012 - 5	53	—	23	8	13	9
6	49	—	15	29	0	5
7	36	—	11	10	4	11
8	24	—	8	12	0	4
9	33	—	5	21	0	7
10	39	—	14	14	4	7
11	36	—	18	16	0	2
12	43	—	10	21	5	7
2013 - 1	38	—	16	3	10	9
2	32	—	6	12	5	9
3	36	—	10	15	3	8
4	36	—	7	13	6	10
5	35	—	8	9	9	9
6	36	—	8	13	0	15
7	28	—	8	5	1	14
8	19	—	7	1	0	11
9	26	—	13	1	2	10
10	40	—	9	6	11	14
11	42	—	9	12	6	15
12	41	—	8	15	4	14
2014 - 1	30	—	9	3	2	16
2	39	—	10	4	0	25
3	35	—	14	6	6	9
4	42	—	7	11	7	17
5	41	—	9	17	5	10
6	45	—	13	12	5	15
7	39	—	13	8	8	10
8	24	—	1	15	0	8
9	32	—	9	10	1	12
10	43	—	10	8	11	14
11	34	—	9	12	9	4
12	43	—	10	10	8	15
1	35	—	10	12	6	7
2	44	—	6	12	12	14
3	37	—	17	11	4	5
4	38	—	16	2	8	12
5	29	—	13	4	0	12

資 料 : 農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考 : kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～)。

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					二 次 The Second	輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③		
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	計 ③ Total		生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014																
対前年比 2013/12(%)	108	98	0	111	90	100	93	115	110	93	—	—	93	100	112	98

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、(社)日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source：“Silk balance and price situation monthly”, “Trade Statistics”(arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Japan Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production, Bureau MAFF.

(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item 暦年 Calendar Year		2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	前年比%	構成比%
		y/y ratio								
布はく製	男子用外衣類 Men's upper garments	3.9	2.5	1.8	2.8	2.2	2.4	3.1	129.2	1.9
	女子用外衣類 Women's upper garments	50.0	40.2	37.1	38.4	51.2	50.0	63.5	127.0	38.8
	うちブラウス Blouse of the inside	3.0	3.4	2.8	2.4	2.0	2.2	6.0	272.7	3.7
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth	2.2	1.6	1.1	1.0	1.4	1.5	1.9	126.7	1.2
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth	15.0	16.3	13.5	13.9	15.5	15.5	20.5	132.3	12.5
	ハンカチ Handkerchief	0.5	0.5	0.4	0.3	0.5	0.3	0.4	133.3	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves	3.0	2.9	2.5	2.2	2.2	2.3	2.2	95.7	1.3
	ネクタイ類 Ties	21.6	20.8	18.2	18.1	14.5	12.8	11.9	93.0	7.3
メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		21.2	19.8	15.9	17.9	18.6	22.7	26.1	115.0	15.9
その他の洋装類 Other western clothes		25.4	23.7	22.0	21.0	20.2	19.1	18.9	99.0	11.5
洋装類計 Western clothes subtotal		143.0	128.3	112.4	115.6	126.3	126.6	148.5	117.3	90.7
和装類計 Japanese clothes subtotal		15.5	14.7	15.9	14.5	12.5	11.8	13.0	110.2	7.9
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside		12.9	12.1	13.9	12.5	10.1	10.1	11.0	108.9	6.7
その他 Others		2.5	2.4	1.9	2.9	3.1	3.2	2.3	71.9	1.4
合計 Total		161.0	145.4	130.2	133.0	141.9	141.6	163.8	115.7	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note: Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
2005		806	830	589
2006		600	645	541
2007		548	581	505
2008		393	518	378
2009		308	385	313
2010		240	299	263
2011		189	162	237
2012		185	209	183
2013		142	137	188
2014				
2013 —	1	0	11	172
	2	1	10	163
	3	0	13	150
	4	0	14	136
	5	3	13	126
	6	21	11	136
	7	38	10	164
	8	16	7	173
	9	7	8	172
	10	40	13	199
	11	4	13	190
	12	12	14	188
2014 —	1	0	11	177
	2	0	15	162
	3	0	12	150
	4	0	15	135
	5	0	14	121
	6	24	14	131
	7	29	14	146
	8	17	9	154
	9	9	11	152
	10	38	15	175
	11	11	12	174
	12	0	16	158
2015 —	1	0	13	145
	2	0	14	131
	3	0	12	119
	4	0	13	106
	5	0	11	95

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～2012. 11)。
中央蚕糸協会(2012. 12～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～2012. 11).
Central Raw Silk Association (2012. 12～).

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2005	10	203	126	62	269	111
	2006	9	114	94	82	266	103
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	7	112	90	80	266	90
	2009	7	118	71	60	259	82
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
	2012	7	110	39	35	243	56
	2013	7	110	38	35	249	57
	2014	7	110	38	35	261	58
2013 —	1	7	110	41	37	20	55
	2	7	110	36	33	21	55
	3	7	110	35	32	22	55
	4	7	110	36	33	22	58
	5	7	110	33	30	22	60
	6	9	110	34	31	18	67
	7	8	110	25	23	23	61
	8	6	110	16	15	20	53
	9	7	110	33	30	14	59
	10	7	110	36	33	23	59
	11	7	110	37	34	22	57
	12	7	110	38	35	22	57
2014 —	1	6	110	38	35	20	57
	2	6	110	37	34	23	57
	3	6	110	37	34	22	57
	4	7	110	37	34	23	57
	5	7	110	37	34	22	57
	6	9	110	38	35	23	62
	7	9	110	39	35	20	62
	8	6	110	26	24	23	50
	9	7	110	38	35	19	58
	10	8	110	38	35	23	62
	11	8	110	37	34	21	62
	12	7	110	38	35	22	58
2015 —	1	7	110	37	34	20	57
	2	7	110	39	35	21	57
	3	6	110	38	35	23	61
	4	6	110	38	35	23	60
	5	7	110	37	34	20	60

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。

中央蚕糸協会及び(一財)大日本蚕糸会(2012.12～)。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Central Raw Silk Association(2012.12～)

Remarks：1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	総 計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	—	2,354	656			
2011	2,456	2,456	288	—	1,651	517			
2012	2,180	2,180	124	—	2,056				
2013	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014	1,653	1,653	78	—	1,575				
生糸年度 (6～5) Silk Year									
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,205	4,205	376	15	3,266	515			
2009	3,661	3,661	358	—	2,795	508			
2010	2,999	2,999	285	—	2,014	700			
2011	2,348	2,348	304	—	1,481	583			
2012	2,402	2,402	251	—	2,151				
2013	2,266	2,266	137	—	2,129				
2013 — 1	2,162	2,162	136	—	2,026				
2	2,282	2,282	143	—	2,139				
3	2,432	2,432	136	—	2,296				
4	1,901	1,901	137	—	1,764				
5	2,281	2,281	130	—	2,151				
6	2,266	2,266	137	—	2,129				
7	2,203	2,203	118	—	2,085				
8	2,097	2,097	110	—	1,987				
9	1,946	1,946	97	—	1,849				
10	1,907	1,907	103	—	1,804				
11	1,701	1,701	110	—	1,591				
12	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014 — 1	1,839	1,839	116	—	1,723				
2	1,887	1,887	114	—	1,773				
3	1,991	1,991	78	—	1,913				
4	1,756	1,756	85	—	1,671				
5	1,999	1,999	99	—	1,900				
6	1,967	1,967	88	—	1,879				
7	1,877	1,877	79	—	1,798				
8	1,786	1,786	74	—	1,712				
9	1,728	1,728	63	—	1,665				
10	1,725	1,725	67	—	1,658				
11	1,642	1,642	66	—	1,576				
12	1,653	1,653	78	—	1,575				
2015 — 1	1,747	1,747	74	—	1,673				
2	1,758	1,758	77	—	1,681				
3	1,911	1,911	80	—	1,831				
4	1,418	1,418	75	—	1,343				
5	1,550	1,550	83	—	1,467				

資 料：農林水産省生産局調査（～2010.3）。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。中央蚕糸協会(2012.12～)
Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).
Central Raw Silk Association (2012.12～).

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況（平成21年～27年4月）

Breakdown of Silk-Related Products Imports (2009~Apr. 2015)

	単位 Unit	平成27年(2015)		平成26年 (2014)	平成25年 (2013)	平成24年 (2012)	平成23年 (2011)	平成22年 (2010)	平成21年 (2009)	26年/25年 2014/13 (%)
		(4月) Feb.	(累計) Accumulate d Total							
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	0	2,139	8,235	9,332	10,032	9,323	12,207	12,075	88.2
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,165	4,326	14,820	15,844	16,179	17,526	16,306	16,647	93.5
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	0	18	48	169	81	62	82	149	28.4
繭 Cocoon	kg	0	0	10,200	8,300	6,250	4,050	13,158	9,800	122.9
真綿 Floss Silk	kg	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ペニエ Peigne	kg	-	-	-	-	-	-	-	35,331	-
くず繭 Waste Cocoon	kg	102	2,774	11,728	13,314	6,457	10,885	9,395	33,450	88.1
絹ノイル Silk Noil	kg	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	11,248	44,704	101,655	92,024	107,023	98,732	134,852	125,999	110.5
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	11,350	47,478	113,383	105,338	107,022	109,617	144,247	159,449	107.6
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	31,115	140,355	453,450	438,786	482,523	394,920	451,219	335,710	103.3
絹紡糸 絹糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	12,579	48,609	141,707	152,749	140,188	118,404	104,374	97,554	92.8
絹織物 Silk Fabrics	m ²	460,781	1,770,152	6,097,501	6,661,585	7,218,094	8,422,094	8,930,391	9,027,911	91.5

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位 : 60 k g 俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国 名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2007	12,858	8,804	3,848	-	206	-
2008	15,242 (137)	10,969 (102)	4,152 (35)	-	122	-
2009	12,085 (72)	8,170 (51)	3,855 (21)	-	41	-
2010	12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	-	32	-
2011	9,323 (63)	7,170 (32)	2,136 (30)	-	5	-
2012	10,032 (49)	8,628 (36)	1,403 (13)	-	-	-
2013	9,332 (98)	8,047 (59)	1,275 (34)	10 (5)	-	-
2014						
2013 - 1	958 (10)	918 (10)	40	-	-	-
2	906 (9)	698 (7)	207 (2)	-	-	-
3	1,148 (17)	1,083 (17)	65	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	1,314 (25)	1,031 (15)	278 (10)	5	-	-
6	925	841	84	-	-	-
7	611 (2)	539	72 (2)	-	-	-
8	758 (15)	577	176 (10)	5 (5)	-	-
9	566	546	20	-	-	-
10	855 (15)	689 (10)	166 (5)	-	-	-
11	491	416	75	-	-	-
12	800 (6)	708	92 (6)	-	-	-
2014 - 1	776	687	88	-	1	-
2	591 (2)	465 (2)	107	-	-	20
3	1,055 (13)	973 (13)	76	5	-	-
4	270 (4)	169 (4)	100	-	2	-
5	927 (20)	795 (20)	132 (5)	-	-	-
6	869 (7)	683 (7)	133 (10)	50	2	-
7	599	522	75	-	2	-
8	548	459	79	10	-	-
9	591	480	111	-	-	-
10	748 (14)	660 (14)	83	5	-	-
11	667 (5)	564 (5)	103	-	-	-
12	600 (10)	544 (10)	56	-	-	-
2015 - 1	722	510	212	-	-	-
2	614 (2)	589 (2)	15	10	-	-
3	802 (2)	769	33 (2)	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-

資 料 : 財務省関税局調査

備 考 : 1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year & Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2008		22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010		16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011		17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012		16,179	—	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013		15,844	—	9,148	5,783	33	—	878	3
2014		14,820	—	8,190	5,733	8	—	867	22
2012 —	1	1,590	—	1,075	353	—	—	80	80
	2	758	—	378	216	1	—	162	—
	3	1,143	—	747	281	2	—	113	—
	4	1,092	—	662	326	—	—	103	—
	5	1,531	—	1,001	328	—	—	124	78
	6	1,316	—	727	514	1	—	75	—
	7	1,554	—	907	488	—	—	97	53
	8	1,499	—	897	561	—	—	41	—
	9	1,365	—	773	506	1	—	73	12
	10	1,523	—	953	456	3	—	112	—
	11	1,612	—	982	568	5	—	56	—
	12	1,207	—	824	310	1	—	71	—
2013 —	1	1,744	—	1,080	612	—	—	52	—
	2	1,138	—	616	429	—	—	93	—
	3	1,337	—	940	342	5	—	50	—
	4	1,552	—	880	574	—	—	95	3
	5	1,629	—	1,012	545	1	—	71	—
	6	1,175	—	660	446	3	—	67	—
	7	1,326	—	729	555	4	—	38	—
	8	1,288	—	750	419	1	—	118	—
	9	918	—	489	413	1	—	15	—
	10	1,354	—	682	541	1	—	131	—
	11	1,351	—	676	576	18	—	81	—
	12	1,033	—	635	331	1	—	66	—
2014 —	1	1,579	—	820	692	—	—	67	—
	2	677	—	313	271	1	—	91	—
	3	1,338	—	922	371	—	—	45	—
	4	1,392	—	744	556	—	—	90	2
	5	1,332	—	806	456	—	—	69	—
	6	1,355	—	813	471	1	—	71	—
	7	1,311	—	720	531	1	—	59	—
	8	1,203	—	630	498	—	—	56	19
	9	1,411	—	762	560	3	—	86	—
	10	1,121	—	433	600	2	—	86	—
	11	1,008	—	582	326	1	—	99	—
	12	1,094	—	647	402	1	—	45	—
2015 —	1	1,422	—	788	529	—	—	105	—
	2	1,045	—	573	461	0	0	11	—
	3	693	—	405	268	—	0	21	—
	4	1,165	—	745	332	—	—	87	1

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/K g

項 目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
年 月 Year & Month										
暦 年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794
2012 - 1	1,149	4,180	36	5,260	1,075	4,131	92	5,958	353	4,345
2	289	4,024	193	5,297	378	4,137	162	5,560	216	4,264
3	870	4,296	61	5,241	747	4,323	113	6,187	281	4,731
4	-	-	-	-	662	4,372	103	6,065	326	4,887
5	1,508	4,311	249	5,220	1,001	4,304	124	6,048	328	4,625
6	360	4,347	99	5,005	727	4,370	75	5,876	515	4,703
7	526	4,220	110	5,013	907	4,502	97	5,930	488	4,591
8	817	4,130	81	5,151	897	4,433	41	5,850	561	4,402
9	750	4,212	141	5,353	773	4,315	73	6,167	506	4,320
10	660	4,151	139	5,333	953	4,295	112	6,224	456	4,435
11	963	4,405	159	5,417	982	4,514	56	6,347	568	4,130
12	736	4,758	130	5,571	824	4,815	71	6,599	310	4,755
2013 - 1	918	5,103	40	6,180	1,080	5,172	52	7,079	612	5,084
2	698	6,029	207	6,284	616	5,574	93	7,318	429	5,362
3	1,083	5,733	65	6,749	940	5,959	50	7,806	342	5,789
4	-	-	-	-	880	6,106	95	8,026	574	5,974
5	1,031	6,132	278	7,271	1,012	6,311	71	8,405	545	6,105
6	841	6,237	84	7,517	660	6,461	67	8,602	446	6,505
7	539	5,855	72	7,850	729	6,285	38	8,783	555	6,362
8	577	6,223	176	7,869	750	6,469	118	8,807	419	6,392
9	546	6,250	20	8,035	489	6,468	15	8,853	413	6,485
10	689	6,242	166	8,049	682	6,443	131	8,821	541	6,208
11	416	6,178	75	7,918	676	6,480	181	8,878	576	6,508
- 12	708	6,494	93	8,355	635	6,702	66	9,383	331	6,585
2014 - 1	687	6,560	88	8,429	820	6,758	67	9,549	692	6,812
2	463	6,575	107	8,487	313	6,790	91	9,402	271	6,591
3	961	6,433	76	8,230	922	6,543	45	9,366	371	6,977
4	164	6,583	100	8,283	744	6,658	90	9,330	556	6,682
5	775	6,364	127	8,291	806	6,696	69	9,311	466	6,823
6	676	6,392	124	8,224	813	6,336	71	9,296	471	6,756
7	522	6,237	75	8,205	720	6,341	59	9,251	531	6,625
8	459	6,223	79	8,313	630	6,324	56	9,299	498	6,592
9	480	6,264	111	8,302	762	6,471	86	9,336	560	6,733
10	646	6,407	83	8,485	433	6,778	86	9,665	600	6,857
11	559	6,496	103	8,509	582	6,667	99	9,764	326	6,973
12	534	6,944	56	8,760	647	7,173	45	10,322	402	7,220
2015 1	510	6,969	212	8,872	788	7,186	105	10,172	529	7,406
2	587	6,961	15	9,151	573	6,820	11	10,531	461	7,339
3	769	6,896	31	8,760	405	7,053	21	9,943	268	7,931
4	0	-	0	-	745	7,049	87	9,508	332	7,773

資 料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F価格である。

Source：The customs Bureau ,Ministry of Finance

Remarks：A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)

(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
2003	23,935	8,374	3,801	2,464	2,109	11,509	7,747	3,762	4,052
2004	21,895	7,510	3,511	2,182	1,817	10,875	7,431	3,444	3,510
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	11,472	4,015	1,732	1,193	1,090	5,663	3,449	2,214	1,794
2010	11,612	3,844	1,510	1,254	1,080	6,212	4,029	2,183	1,556
2011	10,418	4,105	2,615	198	1,292	4,338	1,615	2,719	1,979
2012	9,974	4,548	2,482	200	1,875	3,172	1,776	1,395	2,254
2013	10,062	4,688	2,546	192	1,953	3,039	1,479	1,551	2,334
2014	9,368	4,536	2,577	153	1,816	2,596	1,274	1,322	2,234
2013 — 1	818	381	207	16	159	247	120	126	190
2	829	386	210	16	161	250	122	128	192
3	849	396	215	16	165	256	125	131	197
4	883	412	223	17	171	267	130	136	205
5	842	392	213	16	163	254	124	130	195
6	877	408	222	17	170	265	129	135	203
7	900	420	228	17	175	272	132	139	209
8	716	333	181	14	139	216	105	110	166
9	746	348	189	14	145	225	110	115	173
10	887	413	224	17	172	268	130	137	206
11	859	400	217	16	167	260	126	132	199
12	856	399	217	16	166	259	126	132	199
2014 — 1	787	383	218	13	153	217	106	110	188
2	815	396	226	13	158	224	110	114	195
3	811	394	225	13	157	223	110	114	194
4	835	406	231	13	162	230	113	117	200
5	853	414	236	14	165	234	115	119	204
6	863	419	239	14	167	237	116	121	206
7	811	394	225	13	157	223	110	114	194
8	668	324	185	11	130	184	90	93	160
9	709	344	196	11	137	195	96	99	169
10	757	368	210	12	147	208	102	106	181
11	726	353	201	12	141	200	98	102	173
12	733	341	185	14	142	221	108	113	170
2015 — 1	661	321	183	11	128	182	89	93	158
2	627	305	174	10	122	172	85	88	150
3	661	321	183	11	128	182	89	93	158
4	716	348	198	11	138	197	97	100	171

資 料：（一社）日本絹人織織物工業会。

備 考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項 目 Item 年 月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2004	21,895	91.7	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,821	90.3	1,058,571	94.5	170,061	92.6	691,780	88.7
2006	18,526	93.5	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,479	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	13,914	89.9	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,930	71.4	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	11,661	117.4	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	10,319	88.5	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	9,944	96.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	10,062	101.2	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	9,368	93.1	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2013 — 1	818	102.1	25,024	83.7	4,453	93.0	54,617	105.4
2	829	101.3	41,930	109.3	4,632	82.2	52,253	80.3
3	849	102.0	37,110	98.3	4,306	81.2	55,771	89.7
4	883	106.1	38,904	92.1	5,498	97.9	61,790	107.1
5	842	97.2	34,916	104.9	4,794	78.5	59,581	104.8
6	877	98.9	40,887	94.6	4,694	88.0	49,312	103.6
7	900	103.9	36,717	91.8	5,023	84.1	46,098	97.5
8	716	96.4	30,707	96.6	3,564	81.9	43,162	94.1
9	746	103.8	39,079	98.7	4,974	100.4	45,834	102.1
10	887	100.8	32,162	87.6	4,960	82.8	53,507	95.9
11	859	97.6	39,338	102.7	4,170	83.5	56,868	100.6
12	856	100.8	36,677	90.9	4,724	96.3	51,793	95.8
2014 1	787	96.2	24,533	98.0	4,530	101.7	50,063	91.7
2	815	98.3	38,740	92.4	4,396	94.9	54,843	105.0
3	811	95.5	33,931	91.4	4,903	113.9	62,781	112.6
4	835	94.6	34,069	87.6	4,841	88.1	53,582	86.7
5	853	101.3	33,576	96.2	4,241	88.5	50,515	84.8
6	863	98.4	36,794	90.0	4,980	106.1	47,469	96.3
7	811	90.1	33,951	92.5	4,374	87.1	47,632	103.3
8	668	93.3	30,098	98.0	3,355	94.1	42,905	99.4
9	709	95.0	34,688	88.8	4,908	98.7	50,566	108.9
10	757	85.3	31,587	98.2	4,417	89.1	50,476	94.3
11	726	84.5	35,611	90.5	4,179	100.2	44,217	77.8
12	733	85.6	32,614	88.9	4,050	85.7	45,868	88.6
2015 1	661	84.0	23,759	96.8	3,624	80.0	47,602	95.1
2	627	76.9	34,789	89.8	3,895	88.6	43,469	79.3
3	661	81.5	31,168	91.9	4,472	91.2	49,386	78.7
4	716	85.7	31,316	91.9	4,117	85.0	50,797	94.8
5			29,814	88.8	3,105	73.2		

資 料：絹織物生産数量は(一社)日本絹人織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash livings are included in sash production.

(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing&footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
年月 Year & Month												
暦年Calendar Year												
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 1.7	11,994	▲ 4.2	261	▲ 12.7	4,622	▲ 5.5	2,468	▲ 5.0	1,098	▲ 3.1
2010	290,244	▲ 0.5	11,499	▲ 4.1	245	▲ 6.1	4,459	▲ 3.5	2,353	▲ 4.7	1,069	▲ 2.6
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	10.2	4,273	▲ 4.2	2,403	2.1	1,100	2.9
2012	286,169	1.1	11,453	0.6	246	▲ 8.9	4,305	0.7	2,410	0.3	1,087	▲ 1.2
2013	290,455	1.5	11,756	2.6	177	▲ 28.3	4,583	6.4	2,504	3.9	1,066	▲ 2.0
2014	291,194	0.3	11,983	1.9	227	28.3	4,617	0.7	2,518	0.6	1,097	3.0
2012 - 4	301,948	2.6	11,687	4.3	95	2.9	4,399	5.4	2,434	1.1	934	5.0
5	287,911	4.0	11,592	▲ 2.5	124	150.1	3,801	▲ 7.2	2,771	▲ 0.7	1,072	▲ 6.6
6	269,810	1.6	11,208	▲ 1.4	169	49.2	3,627	0.4	2,760	▲ 5.4	1,169	▲ 4.5
7	283,295	1.7	11,920	▲ 1.5	239	▲ 15.4	3,923	▲ 3.7	3,161	0.7	1,286	▲ 2.8
8	286,036	1.4	8,627	▲ 3.3	381	▲ 17.1	2,685	0.0	2,062	0.5	960	1.9
9	266,705	▲ 1.2	8,436	▲ 3.1	188	▲ 15.8	2,900	▲ 1.9	1,876	▲ 1.0	837	▲ 2.5
10	284,238	▲ 0.5	12,195	▲ 6.9	244	▲ 61.4	4,637	▲ 7.5	2,559	▲ 8.2	1,129	▲ 5.6
11	273,772	0.1	13,814	4.4	545	10.3	5,394	7.8	2,541	▲ 3.8	1,382	8.5
12	325,492	▲ 0.8	13,813	0.2	172	215.0	5,571	4.0	2,475	▲ 2.7	1,526	▲ 6.9
2013 - 1	288,934	2.1	12,301	▲ 6.4	28	▲ 89.8	5,208	▲ 6.0	2,592	▲ 3.3	1,110	▲ 1.4
2	268,099	0.1	9,117	3.3	194	▲ 49.2	4,053	9.5	1,647	7.6	738	0.8
3	316,166	4.1	13,271	9.1	138	▲ 7.3	6,177	11.2	2,357	16.1	848	▲ 3.2
4	304,382	0.8	11,762	0.6	134	41.1	4,557	3.6	2,512	3.2	868	▲ 7.1
5	282,366	▲ 1.9	12,400	7.0	231	86.3	4,077	7.3	2,956	6.7	1,142	6.5
6	269,418	▲ 0.1	12,139	8.3	419	147.9	4,088	12.7	2,933	6.3	1,130	▲ 3.3
7	286,098	1.0	11,876	▲ 0.4	194	▲ 18.8	4,091	4.3	3,174	0.4	1,224	▲ 4.8
8	284,646	▲ 0.5	8,829	2.3	71	▲ 81.4	2,857	6.4	2,193	6.4	984	2.5
9	280,692	5.2	9,180	8.8	182	▲ 3.2	3,457	19.2	1,936	3.2	807	▲ 3.6
10	290,676	2.3	12,483	2.4	246	0.8	5,123	10.5	2,595	1.4	1,043	▲ 7.6
11	279,546	2.1	13,741	▲ 0.5	94	▲ 82.8	5,663	5.0	2,593	2.0	1,404	1.6
12	334,433	2.7	13,974	1.2	187	8.7	5,639	1.2	2,554	3.2	1,490	▲ 2.4
2014 - 1	297,070	2.8	14,736	19.8	632	2,157.1	6,424	23.3	2,868	10.6	1,100	▲ 0.9
2	266,610	▲ 0.6	8,384	▲ 8.0	110	▲ 43.3	3,573	▲ 11.8	1,484	▲ 9.9	665	▲ 9.9
3	345,443	9.3	14,955	12.7	168	21.7	6,719	8.8	2,534	7.5	1,166	37.5
4	302,141	▲ 0.7	11,308	▲ 3.9	79	▲ 41.0	4,330	▲ 5.0	2,475	▲ 1.5	866	▲ 0.2
5	271,411	▲ 3.9	12,145	▲ 2.1	238	3.0	3,923	▲ 3.8	2,913	▲ 1.5	1,133	▲ 0.8
6	272,791	1.3	12,141	0.0	322	▲ 23.2	4,130	1.0	2,785	▲ 5.0	1,184	4.8
7	280,293	▲ 2.0	11,262	▲ 5.2	352	81.4	3,658	▲ 10.6	2,969	▲ 6.5	1,186	▲ 3.1
8	282,124	▲ 0.9	9,307	5.4	226	218.3	3,105	8.7	2,147	▲ 2.1	981	▲ 0.3
9	275,226	▲ 1.9	9,178	▲ 0.0	169	▲ 7.1	3,197	▲ 7.5	2,153	11.2	809	0.2
10	288,579	▲ 0.7	11,988	▲ 4.0	221	▲ 10.2	4,649	▲ 9.3	2,569	▲ 1.0	1,053	1.0
11	280,271	0.3	14,110	2.7	119	26.6	5,959	5.2	2,748	6.0	1,324	▲ 5.7
12	332,363	▲ 0.6	14,286	2.2	82	▲ 56.1	5,734	1.7	2,574	0.8	1,702	14.2
2015 - 1	289,847	▲ 2.4	12,881	▲ 12.6	188	▲ 70.3	5,921	▲ 7.8	2,332	▲ 18.7	1,102	0.2
2	265,632	▲ 0.4	8,788	4.8	117	6.4	3,885	8.7	1,711	15.3	610	▲ 8.3
3	317,579	▲ 8.1	13,185	▲ 11.8	104	▲ 38.1	6,179	▲ 8.0	2,341	▲ 7.6	810	▲ 30.5
4	300,480	▲ 0.5	12,493	10.5	155	96.2	4,759	9.9	2,532	2.3	881	1.7

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

－資料・海外－

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2005年	2006年	2007年
		トン	トン	トン
日本	Japan	626	505	433
中国	China	621,461	739,715	779,261
インド	India	126,261	135,462	132,038
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	7,146	8,051	8,617
タイ	Thailand	10,650	10,100	1,785
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	2,543	2,104	1,665
トルコ	Turkey	170	350	130
インドネシア	Indonesia	691	339	470
ブルガリア	Bulgaria	42	65	55
ギリシャ	Greece	70	100	104
フィリピン	Philippines	14.4	16	9
シリア	Syria	5.5	3	2.5
主要国の計	Total	810,680	937,810	965,570

区 分		2008年	2009年	2010年
		トン	トン	トン
日本	Japan	382	327	265
中国	China	683,387	575,299	617,915
インド	India	124,834	131,661	131,924
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	6,266	4,835	4,439
タイ	Thailand	7,700	4,655	4,655
ウズベキスタン	Uzbekistan	25,760	25,896	20,000
イラン	Iran	1,185	1,185	1,185
トルコ	Turkey	126	140	140
インドネシア	Indonesia	273	133	161
ブルガリア	Bulgaria	48	51	75
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	6	4	4
シリア	Syria	3	4	4
主要国の計	Total	871,070	765,290	801,867

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2005年		2006年		2007年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	151	2,500	119	2,000	105	1,800
中国	China	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000
インド	India	15,445	257,400	16,525	275,400	16,245	270,800
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,285	21,400	1,387	23,100	1,220	20,300
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,080	18,000	760	12,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	395	6,600	324	5,400	253	4,200
トルコ	Turkey	30	500	25	400	20	300
インドネシア	Indonesia	91	1,500	47	800	65	1,100
ブルガリア	Bulgaria	6	100	5	100	8	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1.1	0	1.6	0	1.0	0
シリア	Syria	0.7	0	0.5	0	0.0	0
主要国の計	Total	109,940	1,832,300	115,973	1,933,100	130,451	2,174,200

区 分		2008年		2009年		2010年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	95	1,600	69	1,200	53	900
中国	China	98,620	1,643,700	92,455	1,540,900	95,778	1,596,300
インド	India	15,610	260,200	16,322	272,000	16,360	272,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,177	19,600	811	13,500	770	12,800
タイ	Thailand	1,100	18,300	665	11,100	665	11,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,417	23,600	2,447	40,800	2,100	35,000
イラン	Iran	180	3,000	180	3,000	180	3,000
トルコ	Turkey	15	300	20	300	20	300
インドネシア	Indonesia	37	600	19	300	20	300
ブルガリア	Bulgaria	7.5	100	6.3	100	9.4	160
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0.4	0	0.6	0	0.6	0
主要国の計	Total	120,514	2,008,600	115,250	1,920,800	118,211	1,970,160

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド纖維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2009	2010	対前年比 2010/09	2009	2010	対前年比 2010/09
山 西	Shanxi	4,046	5,894	146	266	182	68
河 北	Hebei	1,200	1,500	125	—	—	—
江 蘇	Jiangsu	73,175	77,399	106	17,800	16,000	90
浙 江	Zhejiang	45,600	57,000	125	15,000	14,436	96
安 徽	Anhui	24,800	25,000	101	5,200	6,438	124
江 西	Jiangxi	7,602	7,000	92	2,900	3,591	124
山 東	Shandong	23,900	22,000	92	5,800	7,510	129
河 南	Henan	10,101	7,500	74	2,100	103	5
湖 北	Hubei	17,150	10,600	62	555	446	80
湖 南	Hunan	3,182	2,452	77	104	197	189
広 東	Guangdong	53,321	39,300	74	1,722	1,711	99
広 西	Guangxi	172,900	214,000	124	16,237	18,164	112
重 慶	Chongqing	17,311	17,200	99	4,200	4,000	95
四 川	Sichuan	70,000	71,000	101	14,900	14,900	100
貴 州	Guizhou	2,751	1,460	53	105	134	128
雲 南	Yunnan	30,230	40,000	132	2,237	2,138	96
陝 西	Shaanxi	17,200	17,600	102	3,263	3,664	112
甘 肅	Gansu	253	304	120	—	—	—
寧 夏	Ningxia	126	126	100	—	—	—
新 疆	Xinjiang	450	580	129	—	—	—
内 蒙 古	Inner Mongolia	—	—	—	66	64	97
合 計	Total	575,299	617,915	107	92,455	95,778	104

製糸工場数（件） Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China (1998年～2009年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	前年比 10/09(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	0.1	0.2	125
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	0.4	0.6	146
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai						0.0	0.0						
江 蘇	Jiangsu	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	7.3	7.7	106
浙 江	Zhejiang	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	4.6	5.7	125
安 徽	Anhui	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	2.5	2.5	101
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	0.8	0.7	92
山 東	Shandong	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	2.4	2.2	92
河 南	Henan	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	1.0	0.8	74
湖 北	Hubei	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	1.7	1.1	62
湖 南	Hunan			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.2	77
広 東	Guangdong	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	5.3	3.9	74
広 西	Guangxi	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	17.3	21.4	124
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	1.7	1.7	99
四 川	Sichuan	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	7.0	7.1	101
貴 州	Guizhou	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	0.3	0.1	53
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	3.0	4.0	132
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	1.7	1.8	102
甘 肅	Gansu						0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia						0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
合 計	Total	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	57.5	61.8	107

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5) 中国のシルク類(生糸、絹糸、絹織物)の輸出状況

Silk Exports of China
(2012年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 インド	India	4,505,837	109.52	210,390	100.64
2 ベトナム	Vietnam	783,904	125.53	38,084	124.02
3 ルーマニア	Romania	729,411	100.11	35,729	93.89
4 日本	Japan	482,249	119.68	25,830	114.45
5 韓国	South Korea	412,421	88.43	20,393	83.14
6 イタリア	Italy	309,833	99.30	15,627	90.46
7 バングラデッシュ	Bangladesh	105,212	119.12	4,869	111.62
8 ミャンマー	Myanmar	99,217	120.59	4,827	114.80
9 ブラジル	Brazil	41,321	93.39	2,253	95.72
10 ブルガリア	Bulgaria	39,232	250.59	2,008	237.55
11 その他	Others	165,357	68.19	8,442	66.12
合計	Total	7,673,994	107.75	368,452	100.47

Silk Exports of China
(2013年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2013年実績	13/12(%)	2013年実績	13/12(%)
1 インド	India	3,234,255	71.78	175,674	83.50
2 ルーマニア	Romania	956,164	131.09	54,148	151.55
3 ベトナム	Vietnam	879,436	112.19	48,996	128.65
4 日本	Japan	441,864	91.63	27,008	104.56
5 イタリア	Italy	375,606	121.23	22,116	141.53
6 韓国	South Korea	322,193	78.12	18,240	89.44
7 バングラデッシュ	Bangladesh	112,589	107.01	6,218	127.72
8 ブラジル	Brazil	86,068	208.29	5,249	233.02
9 ミャンマー	Myanmar	82,686	83.34	4,641	96.14
10 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	69,375	379.55	3,757	429.44
11 その他	Others	129,996	69.77	7,560	78.96
合計	Total	6,690,232	87.18	373,607	101.39

相手国	Country	絹糸 Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 日本	Japan	655,083	100.22	35,489	94.83
2 インド	India	399,229	45.92	19,203	43.04
3 イタリア	Italy	370,973	69.85	19,699	64.49
4 ドイツ	Germany	256,806	128.67	13,932	135.84
5 パキスタン	Pakistan	249,628	92.67	12,357	88.13
6 韓国	South Korea	188,559	103.41	9,625	98.64
7 タイ	Thailand	108,350	79.70	5,628	71.47
8 インドネシア	Indonesia	75,921	80.69	3,737	76.81
9 ベトナム	Vietnam	47,662	143.83	2,312	135.88
10 香港	Hong Kong	27,214	205.14	1,036	197.85
11 その他	Others	196,543	97.95	9,827	94.46
合計	Total	2,575,968	80.94	133,927	78.30

相手国	Country	絹糸 Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2013年実績	13/12(%)	2013年実績	13/12(%)
1 日本	Japan	625,692	95.51	38,265	107.82
2 イタリア	Italy	429,633	115.81	26,632	135.19
3 インド	India	315,664	79.07	17,728	92.32
4 ドイツ	Germany	221,637	86.31	14,577	105.45
5 韓国	South Korea	155,680	82.56	9,110	94.65
6 パキスタン	Pakistan	149,864	60.03	8,760	70.89
7 タイ	Thailand	97,648	90.12	5,910	105.02
8 インドネシア	Indonesia	64,493	84.95	3,660	97.93
9 リビア	Libya	33,790	170.64	2,829	192.83
10 トルコ	Turkey	32,426	651.12	1,963	678.20
11 その他	Others	215,646	87.43	12,115	102.85
合計	Total	2,342,173	90.92	141,549	115.90

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 パキスタン	Pakistan	60,795,118	123.71	221,429	136.62
2 イタリア	Italy	30,611,776	91.29	173,999	93.77
3 インド	India	22,883,399	71.21	107,334	74.15
4 香港	Hong Kong	14,413,983	98.38	104,429	102.96
5 韓国	South Korea	11,463,400	82.42	76,701	91.32
6 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	9,815,910	134.63	61,898	169.70
7 日本	Japan	9,265,038	89.70	43,154	92.75
8 マレーシア	Malaysia	7,114,607	111.84	38,315	100.89
9 アメリカ	United States	5,571,051	89.10	42,063	95.11
10 トルコ	Turkey	3,799,272	73.73	21,575	79.00
11 その他	Others	1,251,674	80.75	166,336	89.02
合計	Total	206,985,228	95.19	943,958	100.01

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2013年実績	13/12(%)	2013年実績	13/12(%)
1 パキスタン	Pakistan	47,586,463	78.27	204,414	92.31
2 イタリア	Italy	26,638,448	87.02	160,210	92.08
3 インド	India	16,848,146	73.63	88,764	82.70
4 香港	Hong Kong	10,876,747	75.46	86,259	82.60
6 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	9,856,944	100.42	67,575	109.17
5 韓国	South Korea	8,955,041	78.12	64,641	84.28
7 日本	Japan	8,034,285	86.72	40,938	94.82
8 マレーシア	Malaysia	5,848,811	82.21	36,385	94.96
9 アメリカ	United States	4,467,178	80.18	37,605	89.40
10 トルコ	Turkey	4,270,322	112.40	27,942	129.51
11 その他	Others	23,954,769	76.61	145,636	87.49
合計	Total	167,337,154	80.84	960,369	90.83

資料:中国税関

Source:Customs General Administration in China

資料: 中国税関

Source: Customs General Administration in China

(6) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格
Spot Price of Various Silk Goods

2015年4月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		103.95 ~ 114.75	2,079 ~ 2,295
2	玉繭(double cocoon)		91.10 ~ 98.50	1,822 ~ 1,970
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	101.40 ~ 110.85	2,028 ~ 2,217
4	ビス(bisu)		79.83 ~ 88.70	1,597 ~ 1,774
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	318.95 ~ 322.45	6,379 ~ 6,449
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	320.05 ~ 325.45	6,401 ~ 6,509
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	303.50 ~ 311.75	6,070 ~ 6,235
8	玉糸(doupion silk)	110d	314.58 ~ 327.23	6,292 ~ 6,545
9	土糸(native silk)	110d	290.50 ~ 301.88	5,810 ~ 6,038
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	29.33 ~ 31.33	587 ~ 627
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	25.08 ~ 27.42	502 ~ 548
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	44.50 ~ 47.50	890 ~ 950
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	47.81 ~ 50.56	956 ~ 1011
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	41.41 ~ 45.00	828 ~ 900
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	34.25 ~ 39.00	685 ~ 780

注:1元=20円

2015年5月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		103.90 ~ 114.25	2,078 ~ 2,285
2	玉繭(double cocoon)		89.55 ~ 96.28	1,791 ~ 1,926
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	99.23 ~ 107.03	1,985 ~ 2,141
4	ビス(bisu)		81.73 ~ 88.20	1,635 ~ 1,764
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	316.40 ~ 320.88	6,328 ~ 6,418
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	317.73 ~ 321.70	6,355 ~ 6,434
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	302.75 ~ 308.25	6,055 ~ 6,165
8	玉糸(doupion silk)	110d	314.75 ~ 327.28	6,295 ~ 6,546
9	土糸(native silk)	110d	287.88 ~ 298.95	5,758 ~ 5,979
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	29.73 ~ 30.98	595 ~ 620
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	26.13 ~ 27.48	523 ~ 550
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	47.88 ~ 49.38	958 ~ 988
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	48.52 ~ 49.94	970 ~ 999
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	41.29 ~ 42.63	826 ~ 853
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	34.56 ~ 35.73	691 ~ 715

注:1元=20円

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

(7) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額 (億元) Total Wage Bill (100million yuan)				対前年増減率 (%) Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	3.8	6.2	1.1	24.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	▲ 0.6	▲ 5.3	▲ 17.8	55.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	6.5	5.1	▲ 5.6	20.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	7.9	6.2	▲ 4.5	20.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	11.4	9.9	▲ 5.5	23.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	11.7	7.3	▲ 3.9	30.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	12.4	8.5	0.4	25.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	14.9	11.4	1.0	25.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	17.1	11.4	3.4	30.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	17.6	13.3	8.5	26.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	21.5	19.9	12.6	24.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	19.7	16.8	8.6	25.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	14.2	12.2	5.8	17.5
2010年	47,269.9	24,886.4	1,433.7	20,949.7	17.3	13.8	12.6	22.1
2011年	59,954.7	28,954.8	1,737.4	29,262.4	26.8	16.3	21.2	39.7
2012年	70,914.2	32,950.0	1,990.4	35,973.8	18.3	13.8	14.6	22.9

資料：中国統計年鑑(2013)

Source: China Statistical Yearbook 2013

(8) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年増減率

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対 前 年 増 減 率 (%) Indices (preceding year=100)							
					名 目 賃 金 Average Wage				実 質 賃 金 Average Real Wage			
	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	7.8	7.6	4.7	6.7	4.5	4.4	1.6	3.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	15.5	13.5	17.7	1.6	16.2	14.2	18.4	2.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	11.7	11.4	8.4	9.8	13.2	12.9	9.8	11.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	12.2	11.8	8.4	10.8	11.3	10.9	7.5	9.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	16.1	17.0	9.8	10.7	15.3	16.2	9.0	9.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	14.2	15.0	11.5	8.4	15.4	16.2	12.6	9.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	12.9	13.0	13.0	10.1	11.9	12.0	12.0	9.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	14.0	14.5	12.7	11.3	10.3	10.9	9.1	7.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	14.3	15.4	14.9	11.2	12.5	13.6	13.1	9.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	14.6	14.4	15.1	14.4	12.9	12.7	13.4	12.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	18.5	20.2	20.0	15.6	13.4	15.0	14.8	10.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	16.9	16.0	17.2	17.6	10.7	9.8	11.0	11.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	11.6	12.7	13.8	9.8	12.6	13.7	14.8	10.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	13.3	12.4	16.5	14.2	9.8	8.9	12.9	10.7
2011年	41,799	43,483	28,791	41,323	14.4	13.4	19.9	15.4	8.6	7.7	13.9	9.6
2012年	46,769	48,357	33,784	46,360	11.9	11.2	17.3	12.2	9.0	8.3	14.2	9.3

中国統計年鑑2013 Source: China Statistical Yearbook 2013

(9)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356	16,717	19,469	22,687
採掘業 Mining	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038	44,196	52,230	56,946
製造業 Manufacturing	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810	30,916	36,665	41,650
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869	47,309	52,723	58,202
建築業 Construction	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161	27,529	32,103	36,483
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315	40,466	47,078	53,391
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154	64,436	70,918	80,510
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139	33,635	40,654	46,340
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860	23,382	27,486	31,267
金融業 Financial Intermediation	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398	70,146	81,109	89,743
不動産業 Real Estate	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242	35,870	42,837	46,764
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494	39,566	46,976	53,162
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143	56,376	64,252	69,254
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159	25,544	28,868	32,343
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172	28,206	33,169	35,135
教育 Education	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543	38,968	43,194	47,734
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662	40,232	46,206	52,564
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755	41,428	47,878	53,558
公共機関、社会团体 Public Management and Social Organization	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326	38,242	42,062	46,074
合 計 Total	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244	36,539	41,799	46,769

(出所)中国統計年鑑2013

Source: China Statistical Yearbook 2013

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
製造業 Manufactur	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340	401,908	476,645	541,450
合 計 Total	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416	475,007	543,387	607,997
年別人民元yuan／円yenレート	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00	13.00	13.00	13.00

(10) 中国省別従業員年平均賃金(2012年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省(区)別 Region			年平均賃金(単位: 元)(yuan)	円換算(円) (yen)	対全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	84,742	1,101,646	181.19
天	津	Tianjin	61,514	799,682	131.53
河	北	Hebei	38,658	502,554	82.66
山	西	Shanxi	44,236	575,068	94.58
内	蒙	Inner Mongolia	46,557	605,241	99.55
遼	寧	Liaoning	41,858	544,154	89.50
吉	林	Jilin	38,407	499,291	82.12
黒	龍	Heilongjiang	36,406	473,278	77.84
上	海	Shanghai	78,673	1,022,749	168.22
江	蘇	Jiangsu	50,639	658,307	108.27
浙	江	Zhejiang	50,197	652,561	107.33
安	徽	Anhui	44,601	579,813	95.36
福	建	Fujian	44,525	578,825	95.20
江	西	Jiangxi	38,512	500,656	0.04
山	東	Shandong	41,904	544,752	89.60
河	南	Henan	37,338	485,394	79.83
湖	北	Hubei	39,846	517,998	85.20
湖	南	Hunan	38,971	506,623	83.33
広	東	Guangdong	50,278	653,614	107.50
広	西	Guangxi	36,386	473,018	77.80
海	南	Hainan	39,485	513,305	84.43
重	慶	Chongqing	44,498	578,474	95.14
四	川	Sichuan	42,339	550,407	90.53
貴	州	Guizhou	41,156	535,028	88.00
雲	南	Yunnan	37,629	489,177	80.46
西	蔵	Tibet	51,705	672,165	110.55
陝	西	Shaanxi	43,073	559,949	92.10
甘	肅	Gansu	37,679	489,827	80.56
青	海	Qinghai	46,483	604,279	99.39
寧	夏	Ningxia	47,436	616,668	101.43
新	疆	Xinjiang	44,576	579,488	95.31
全国平均		Average	46,769	607,997	100.00

(出所) 中国統計年鑑2013 Source: China Statistical Yearbook 2013

(注) 1元=13円 Note: 1yuan=13yen

(11)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,037 (68%)
2011/12	2,620 (86%)
2012/13	2,608 (99%)
2013/2014	2,563 (98%)
2014/2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	2,764 (108%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	769,903 (95%)	12,832
2011	557,633 (72%)	9,294
2012	439,504 (79%)	7,325
2013	440,301 (100%)	7,338
2014	432,500 (98%)	7,208
2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	435,500 (101%)	7,258

資料：ブラタク製糸株式会社

注：()内は対前年比

[]内の見込みは2015年4月現在

Source: Fiação de Seda Brtác S.A

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of April 2015.

(12)ブラジルの生糸・絹糸輸出数量の推移

Raw Silk and Thrown Silk Yarns Exportation

区 分		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
		kg %	kg %	kg %	kg %	kg %	kg %
日本	Japan	442,264 44%	296,578 34%	294,346 38%	249,069 49%	136,110 32%	140,010 32%
ベトナム	Vietnam	243,950 25%	308,464 36%	217,347 28%	118,034 23%	82,959 19%	51,491 12%
フランス	France	101,391 10%	74,747 9%	53,441 7%	87,886 17%	180,368 42%	202,938 46%
イタリア	Italy	83,032 8%	68,418 8%	143,159 19%	42,913 9%	26,951 6%	28,285 6%
韓国	South Korea	43,844 4%	25,259 3%	27,916 4%	0 0%	302 0%	303 0%
トルコ	Turkey	21,370 2%	16,165 2%	21,131 3%	3,660 1%	0 0%	0 0%
ドイツ	Germany	6,095 1%	0 0%	3,742 0%	4,940 1%	5,417 1%	4,815 1%
インド	India	38,072 4%	73,181 8%	3,600 0%	0 0%	0 0%	7,950 2%
チュニジア	Tunisia	2,428 0%	0 0%	2,609 0%	1,205 0%	0 0%	0 0%
スイス	Switzerland	11,344 1%	758 0%	256 0%	5 0%	12 0%	18 0%
その他	the others	1,012 0%	3,189 0%	242 0%	117 0%	230 0%	348 0%
合 計	Total	994,801 100%	866,759 100%	767,789 100%	507,829 100%	432,349 100%	436,158 100%

資 料：ブラタク製糸株式会社

Source：Fiação de Seda Brtac S.A

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2015 年 7 月号 NO.43 平成 27 年 7 月 1 日発行

編集 / 発行

(問い合わせ先)

**一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸・絹業提携支援センター**

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL: <http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷

株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず